

枚方市スポーツ推進計画

(素案)

平成28年 月

枚方市教育委員会

目 次

第1章 計画の基本的な考え方	4
1 計画策定の趣旨	4
（1）策定の背景	4
（2）策定の目的	4
2 計画の位置づけ	5
（1）法的根拠と関連計画との整合	5
（2）計画の進め方	5
3 スポーツ推進の基本的視点	6
（1）生涯スポーツの推進	6
（2）健康スポーツの推進	6
（3）地域の活性化につながるスポーツ活動の推進	6
4 計画の推進期間	7
第2章 スポーツを取り巻く環境	8
1 市民のスポーツに関する意識と行動	8
（1）スポーツに対する関心とスポーツ活動の現状	8
（2）今後のスポーツに対する実施意向	13
2 子どものスポーツ活動	17
（1）幼児期におけるスポーツ活動	17
（2）小・中学校におけるスポーツ活動	18
（3）スポーツ少年団の活動	20
（4）スポーツの指導者の状況	23
3 スポーツ活動の状況	27
（1）地域におけるスポーツ活動	27
（2）高齢者スポーツ	27
（3）障害者スポーツ	29
（4）競技スポーツの状況	31
（5）スポーツ関係団体等の状況	32
4 今後の取組課題	38
（1）健康増進・健康寿命の延伸をめざす生涯スポーツの推進	38
（2）子どものスポーツ活動の充実	38
（3）多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実	38
（4）スポーツ関係団体や企業と行政が協働したスポーツ推進体制の強化	38

第3章 枚方市のスポーツ推進に向けた取組	39
1 基本理念	39
2 本計画の目標指標	39
3 課題解決に向けた施策の方向性	40
4 施策展開の考え方	41
5 具体的施策	41
（1）スポーツに気軽に親しめる環境づくり	41
（2）スポーツを通じた健康づくり	43
（3）子どもがスポーツを楽しむための条件整備	44
（4）地域スポーツの充実	45
（5）障害者スポーツの促進	46
（6）スポーツ資源の充実と活用	47
（7）各種競技スポーツのレベルアップ	48
（8）プロスポーツとの交流促進	50
第4章 計画の推進	51
1 推進体制	51
（1）各主体の役割	51
（2）スポーツ関係団体と行政との役割の明確化と適切な協働体制の確立	52
2 進行管理	53

資料編

1	枚方市の主なスポーツ事業一覧（平成 27 年度）	1
2	アンケート調査集計結果	15
	（1）市民アンケート	15
	（2）障害者スポーツアンケート	50
	（3）関係団体アンケート	59
	（4）スポーツ推進委員アンケート	67
	（5）スポーツ指導者アンケート	73
3	平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本市の結果	80
	（1）小・中学生の体力の状況＜握力＞	80
	（2）小・中学生の体力の状況＜上体起こし＞	81
	（3）小・中学生の体力の状況＜長座体前屈＞	82
	（4）小・中学生の体力の状況＜反復横とび＞	83
	（5）小・中学生の体力の状況＜持久走＞	84
	（6）小・中学生の体力の状況＜20mシャトルラン＞	85
	（7）小・中学生の体力の状況＜50m走＞	86
	（8）小・中学生の体力の状況＜立ち幅とび＞	87
	（9）小・中学生の体力の状況＜ソフトボール（ハンドボール）投げ＞	88
4	市民スポーツ賞受賞者一覧	89
5	用語説明	95

第1章 計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

(1) 策定の背景

① 国の動き

わが国では、少子・高齢化社会の進展を背景に、人々の健康志向の高まりや介護予防、健康寿命の延伸等のための健康づくりの取組における運動・スポーツ活動など、人々のスポーツに対するニーズは高まっています。また、ライフスタイルや価値観の多様化などにより、ゆとりや心の豊かさを求める傾向が強まり、スポーツの楽しみ方が拡大し、単なる競技や体力づくりのためだけでなく、「する」「観る」「支える」といった観点から多様なスポーツへの関わり方が求められています。

国においては、平成22年8月に「新たなスポーツ文化の確立」をめざす姿として、「する人、観る人、支える（育てる）人の重視」「連携・協働の推進」を基本的な考えとした「スポーツ立国戦略」を策定しました。その後、昭和36年に制定したスポーツ振興法を平成23年6月に全部改正し、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人の権利」と明記し、スポーツ立国の実現を国家戦略として位置づけた「スポーツ基本法」を制定しました。平成24年3月には「スポーツ基本計画」を策定し、年齢や性別、障害などを問わず、広く人々が、関心、適性などに応じてスポーツに参画することができる環境を整備するために、成人の週1回以上のスポーツ実施率65%程度をめざし、10年間を見通したスポーツ推進の基本方針を掲げています。また、平成27年10月には、スポーツ庁を設置し、スポーツに関する施策を総合的に推進しています。

② 大阪府の動き

このような国の動きを踏まえ、大阪府では、平成24年4月に「大阪府スポーツ推進計画」を策定しました。この計画では、『大阪スポーツ王国の創造』を目標に、「だれもが『する』『みる』『ささえる』スポーツに参加できる大阪」「スポーツを通じて健康で明るく活力に満ちた大阪」「スポーツを通じて都市の魅力を創造し、発信する大阪」の3つを理念に据え、ライフステージに応じたスポーツ機会づくりやスポーツの活力を生かした都市魅力づくりに向けた各種施策を展開しています。

(2) 策定の目的

本市では、平成19年3月にスポーツ振興施策の方向性を明らかにした「枚方市スポーツ振興ビジョン」（以下「市ビジョン」という。）を策定し、「スポーツによる健康・生きがいづくりの推進」「スポーツを通じた豊かな人間関係やコミュニティの形成」の2つの基本視点を踏まえ、スポーツ振興のための各種施策を展開してきました。

市ビジョン策定から10年が経過し、その間、国の動きが示すようにスポーツを取り巻く状況は大きく変化しています。また、「ラグビーワールドカップ」（平成31年開催予定）

をはじめ、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」（平成32年開催予定）、生涯スポーツの国際総合競技大会「ワールドマスターズゲームズ」（平成33年開催予定）など、今後わが国では大きな競技大会の開催が目白押しで、これらをきっかけに、スポーツへの関心がさらに高まることが期待されます。さらに本市においても少子高齢化が急速に進展し健康長寿社会の実現をめざす中で、子どもから高齢者まで多様な世代が健康で豊かな人生を送るため、身近なところでできるスポーツが求められています。このような動向を踏まえ、年齢や体力、目的などに応じて、市民が、いつでも、どこでも気軽にスポーツに参加でき、また豊かなスポーツライフを実現できる環境づくりに引き続き取り組むことが重要です。

そのため、国のスポーツ基本計画や大阪府スポーツ推進計画における基本的な考え方を踏まえ、性別や年齢、障害の有無、個人や家族・団体など人数に関係なく、多種多様なスポーツを楽しめる環境づくりをめざすことを目的に「枚方市スポーツ推進計画」（以下「本計画」という。）を策定するものです。

2 計画の位置づけ

（１）法的根拠と関連計画との整合

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に基づくスポーツの推進に関する計画で、国のスポーツ基本計画の考え方を踏まえ、本市のスポーツに関する施策を関係団体や機関などと連携を図りながら、総合的に推進するための指針となるものです。

また、平成28年3月に策定した「第5次枚方市総合計画」におけるスポーツ推進に関する施策目標（「誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち」）のための取組を具体化する分野別行政計画に位置づけられます。

さらに、教育基本法や社会教育法（文部科学省）と整合を図るとともに、「大阪府スポーツ推進計画」をはじめ、「健康日本21」（厚生労働省）と本市の「教育振興基本計画」「第2次枚方市健康増進計画」「枚方市障害者計画」「ひらかた高齢者保健福祉計画21」「枚方市子ども・子育て支援事業計画」など関連する計画の事業と連携して施策を推進します。

（２）計画の進め方

本計画は、本市のスポーツ推進に向けた取組の基本的な方向性を示すものであり、本計画の施策の方向性に沿って、スポーツ施策に関わる所管部門が、それぞれ毎年度事業を立案し、それに基づき推進するものとします。

3 スポーツ推進の基本的視点

本計画では、「スポーツ」について、「競技者としての技術の向上だけでなく、健康づくり・体力づくりをはじめ、介護予防活動や他者とのコミュニケーション・交流の活発化、レクリエーション活動など、それぞれの目的で行う身体的活動を通じ、多くの市民が自らの意志で楽しむ活動」という広い意味でとらえます。

また、スポーツ基本法「第一章 総則」の「第二条 基本理念」では、スポーツについて「国民が生涯にわたりあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的かつ自律的にその適性及び健康状態に応じて行うことができるよう推進されなければならない」「スポーツは（中略）当該地域における全ての世代の人々の交流が促進され、かつ、地域間の交流の基盤が形成されるものとなるよう推進されなければならない」と明記されています。

このような考え方を踏まえ、本市のスポーツ推進の基本的な視点を次のとおりとします。

（１）生涯スポーツの推進

市民の健やかで豊かな生活を実現するためには、生活の一部にスポーツを取り入れ、生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりが一層重要になっています。

そのため、スポーツ基本法の考え方を踏まえ、「いつでも」「どこでも」「だれでも」スポーツができる視点に立ち、市民一人ひとりの豊かなスポーツライフを支援し、生涯スポーツを推進します。

（２）健康スポーツの推進

不適切な食生活、運動不足など不健康な生活習慣の積み重ねが原因で起こりやすくなる生活習慣病を予防するとともに、運動機能が低下した状態であるロコモティブシンドロームにより介護が必要な状態にならないよう、スポーツを通じて健康寿命の延伸に努めることが重要となっています。

そのため、市民一人ひとりが、自分に合ったスポーツやレクリエーション活動を見つけ、楽しく健康づくりに無理なく取り組むことができるよう、子どもから高齢者まで幅広く参加し健康増進につながるスポーツを推進します。

（３）地域の活性化につながるスポーツ活動の推進

ライフスタイルや価値観の多様化により、地域社会における人間関係の希薄化が進んでいます。

このような現状を踏まえ、市民のスポーツ活動への参加が地域での交流を生み出し連帯感を強めるよう、老若男女、障害の有無に関係なく、「市民の」「市民による」「市民のための」安全で楽しくスポーツができる環境づくりを推進します。

4 計画の推進期間

本計画の推進期間は、第5次枚方市総合計画・基本計画の期間を踏まえ、平成29年度から平成39年度までの11年間とします。なお、本計画期間の中間年度となる平成34年度に、それまでの取組状況について総括するとともに、施策の課題の洗い出し・改善点の検証を行った上で、後期に取り組むべき施策を定めた計画を策定します。

また、本計画の推進期間中においても、国・大阪府の動向や本計画の進行状況、社会・経済情勢等の変化に応じて、計画の見直しの必要が生じた場合は柔軟に対応することとします。

第2章 スポーツを取り巻く環境

1 市民のスポーツに関する意識と行動

市民の運動・スポーツ活動に関する現状や意識などを調査することを目的に実施した「平成28年度 枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査」（以下「H28市民アンケート」という。）の結果から、市民のスポーツに関する意識と行動の状況の概要をみると次のとおりとなっています。

◆H28 市民アンケート調査実施概要

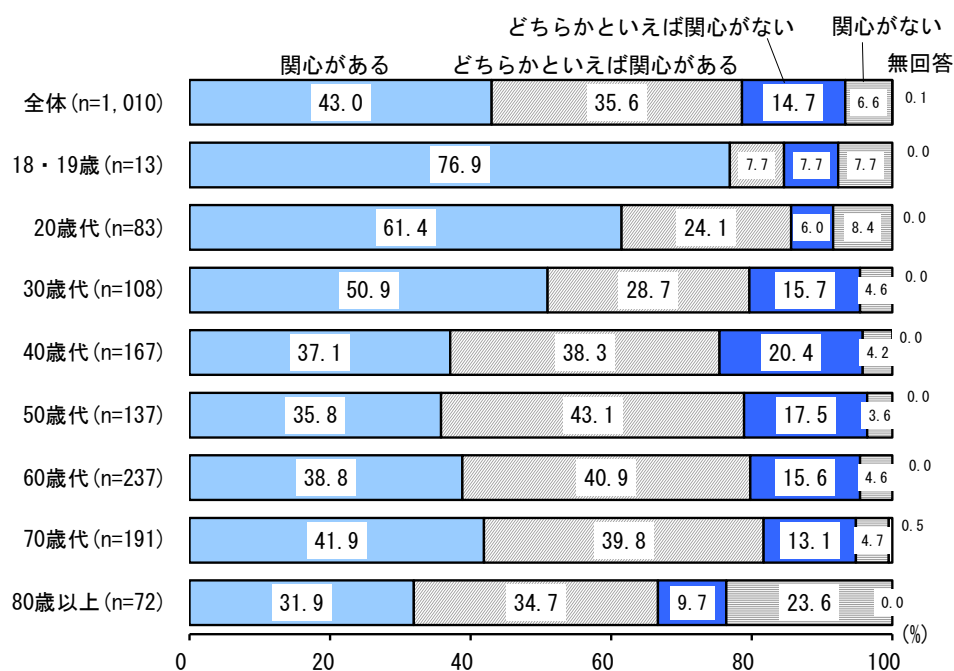
調 査 対 象	枚方市内在住の満 18 歳以上の男女個人 2,000 人 (住民基本台帳から無作為抽出) ※市民以外に障害者(105人)対象の調査も併せて実施
調 査 方 法	郵送調査
調 査 期 間	平成 28 年 7 月 29 日～8 月 15 日(障害者対象: 8 月 8 日～22 日)
回 収 率	50.5%(1,010 件/2,000 件)(障害者対象: 72.4%(76 件/105 件))
全体及び男女別集計について	今回 60 歳以上の年代から多数の回答を得たことで母集団の年代構成に比べ高齢層に偏りが生じたことから、全体値及び男女別の数値については、抽出対象の年代構成に合うよう補正集計を行った結果を掲載しています。

(1) スポーツに対する関心とスポーツ活動の現状

① スポーツに対する関心度

スポーツに「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、全体で78.6%となっており、特に若年層で関心度が高くなっています。しかし、それ以外の年代でも「関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、6割を超え、スポーツに対する関心度は世代に関係なく高くなっています。

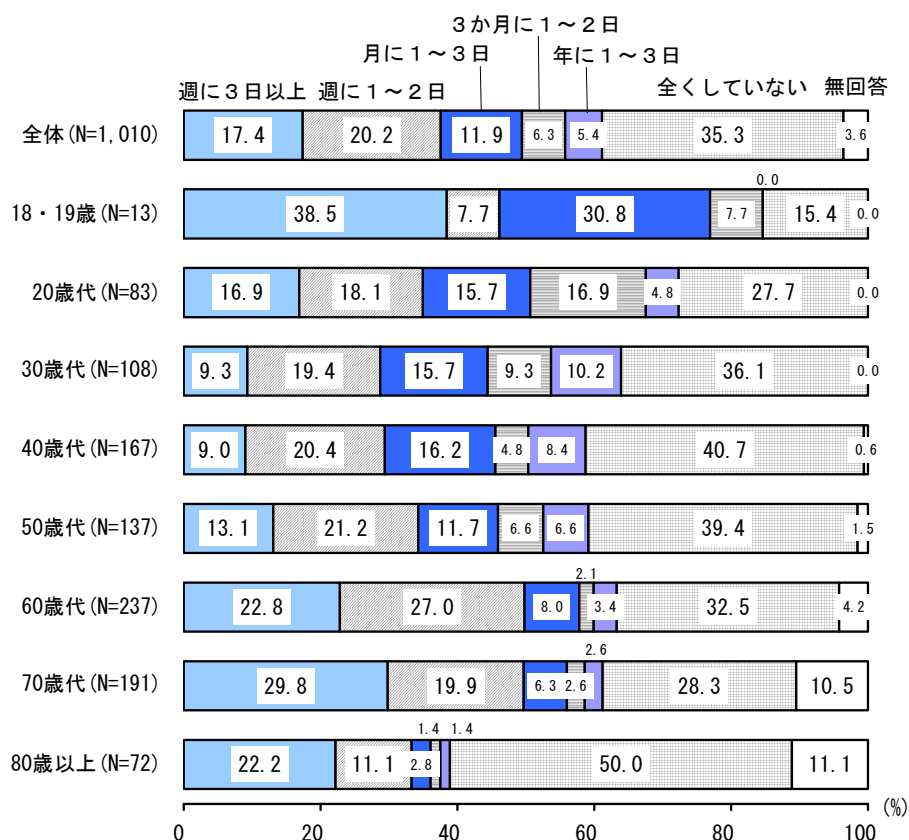
◆図1 スポーツに対する関心度(年代別)



② スポーツの実施頻度、実施種目

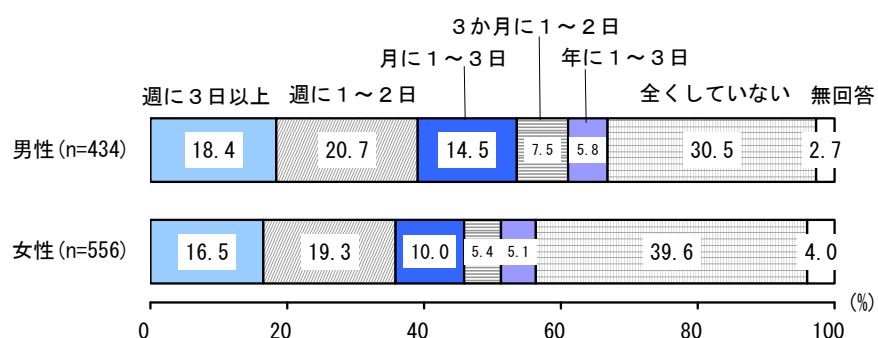
スポーツに関心がある市民が大部分を占めていますが、スポーツを週に1日以上行っている市民は、18・19歳が46.2%で最も高く、そのうち「週に3日以上」が38.5%となっています。それ以上の年代では、60歳代・70歳代の各年代で週に1回以上行っている割合がほぼ5割を占め、80歳以上を含め「週に3日以上」の割合が2割台となっています。これらに対し、20～50歳代の週に1日以上行う割合は低く、30～50歳代の各年代では3割程度にとどまり、「全くしていない」の割合が4割前後を占めています。子育て世代や勤労世代のスポーツ実施率が低くなっている状況です。

◆図2 スポーツの実施頻度（年代別）



週に1日以上スポーツを行う割合は、男性39.1%に対し女性35.8%で男性の割合のほうがやや高く、「全くしていない」の割合は男性30.5%に対し女性39.6%で女性の割合のほうが高くなっています。

◆図3 スポーツの実施頻度（男女別）



実施しているスポーツの上位3種目は、全体では「ウォーキング」が47.1%で最も多く、次いで「体操」(25.6%)、「室内運動器具を使ってする運動」(18.9%)となっています。

ウォーキングは年代に関係なく、実施種目としては多く、特に60歳以上の各年代では6割を占めています。また、18・19歳では「サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ」「テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球」、20歳代では「ランニング（ジョギング）」も多くなっています。

◆表1 実施しているスポーツの種目（年代別 上位3種目）

（複数回答）

全 体 (n=509)	①ウォーキング (47.1%)	②体操 (25.6%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (18.9%)
18・19 歳 (n= 10)	①ウォーキング (30.0%)	①サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ (30.0%)	①テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球 (30.0%)
20 歳代 (n= 42)	①ランニング（ジョギング） (26.2%)	①室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (26.2%)	③ウォーキング (23.8%)
30 歳代 (n= 48)	①ウォーキング (31.3%)	②室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (22.9%)	③水泳 (18.8%)
40 歳代 (n= 76)	①ウォーキング (39.5%)	②体操 (28.9%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (18.4%)
50 歳代 (n= 63)	①ウォーキング (42.9%)	②体操 (31.7%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (19.0%)
60 歳代 (n=137)	①ウォーキング (64.2%)	②体操 (27.7%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (19.7%)
70 歳代 (n=107)	①ウォーキング (66.4%)	②体操 (28.0%)	③水泳 (13.1%)
80 歳以上 (n= 26)	①ウォーキング (61.5%)	②体操 (42.3%)	③ニュースポーツ (15.4%)

男女とも実施しているスポーツの第1位は「ウォーキング」で、これに次いで男性では「ゴルフ」が、女性では「体操」となっています。

◆表2 実施しているスポーツの種目（男女別 上位3種目）

（複数回答）

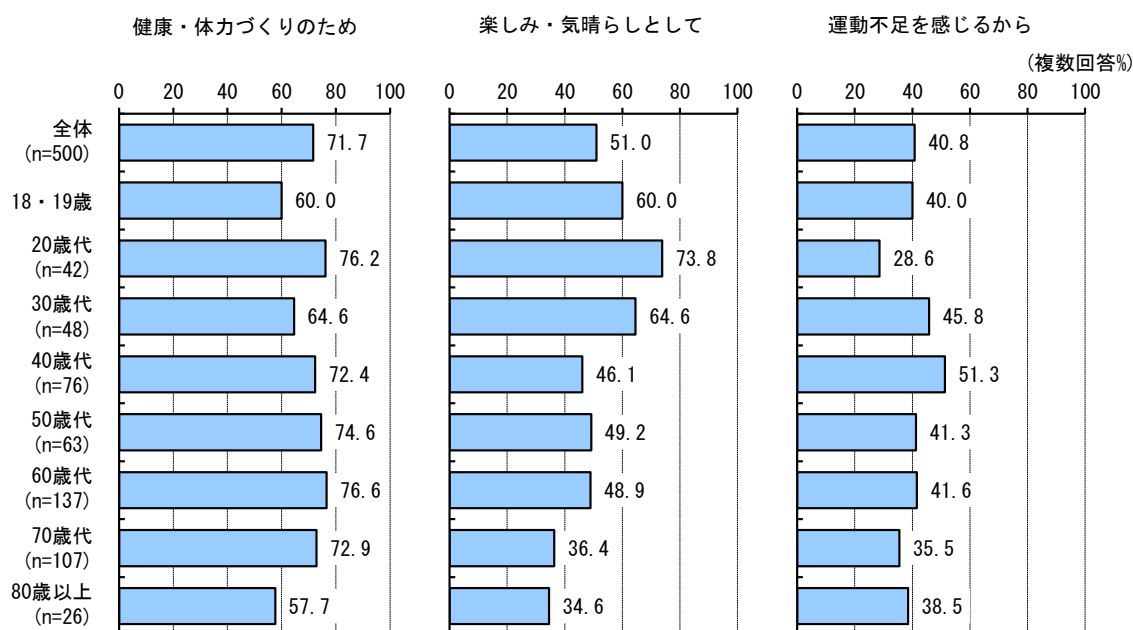
男性 (n=232)	①ウォーキング (42.4%)	②ゴルフ (22.4%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (20.1%)
女性 (n=255)	①ウォーキング (50.8%)	②体操 (38.4%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (17.8%)

③ スポーツをする理由・きっかけ

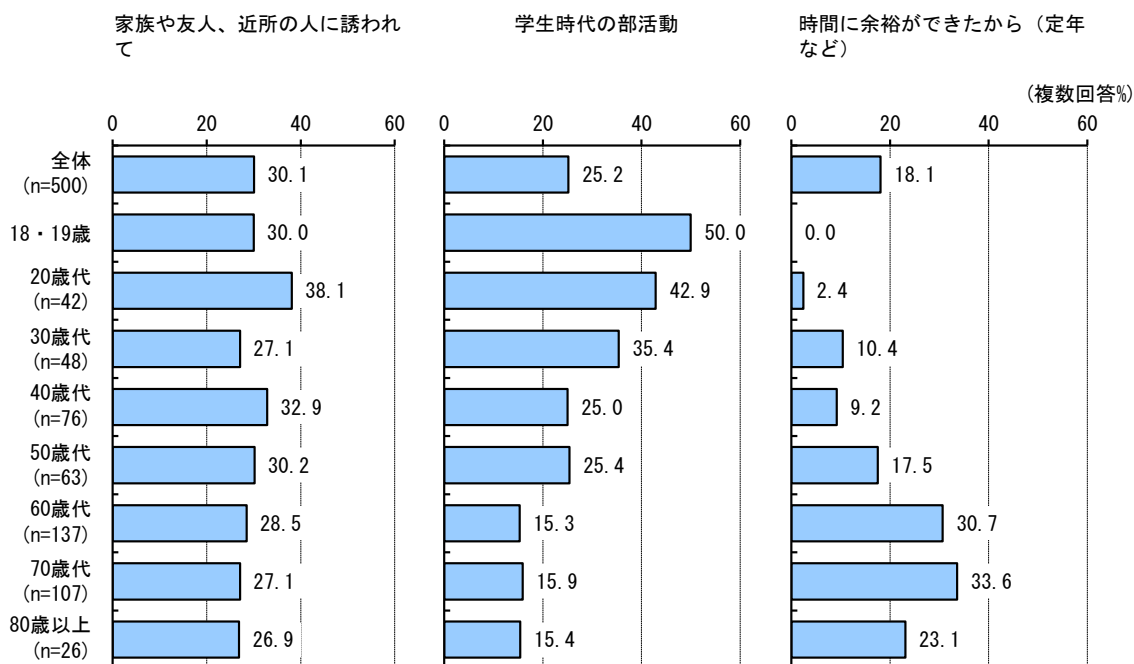
スポーツをする理由の上位は、全体では「健康・体力づくりのため」が71.7%で最も多く、次いで「楽しみ・気晴らしとして」(51.0%)、「運動不足を感じるから」(40.8%)となっています。20・30歳代は「健康・体力づくりのため」と「楽しみ・気晴らしとして」が多く、また30・40歳代では「運動不足を感じるから」も多くなっています。50歳以上の各年代では、健康・体力づくりのためスポーツを行う人が多くなっています。

スポーツを始めたきっかけは、18・19歳、20・30歳代は「学生時代の部活動」が、60歳以上では「時間に余裕ができたから」が多くなっています。また、20歳代では「家族や友人、近所の人に誘われて」も多くなっています。

◆図4 スポーツをする理由（年代別 上位3理由）



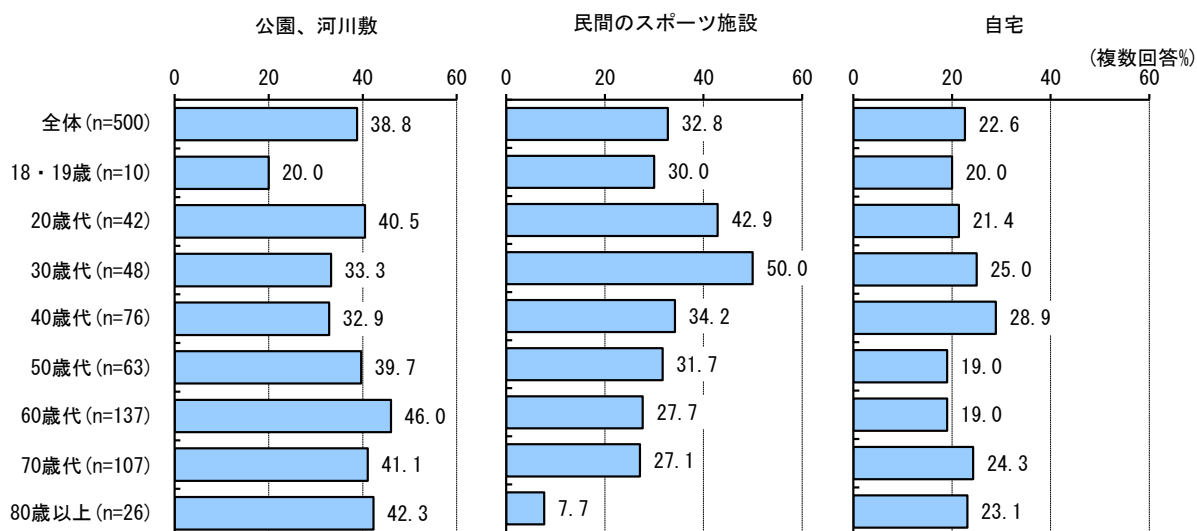
◆図5 スポーツをするようになったきっかけ（年代別 上位3動機）



④ スポーツの実施場所

スポーツの実施場所は、全体では「公園・河川敷」が38.8%で最も多く、次いで「民間のスポーツ施設」(32.8%)、「自宅」(22.6%)が続いています。「民間のスポーツ施設」は20・30歳代の割合が高くなっています。

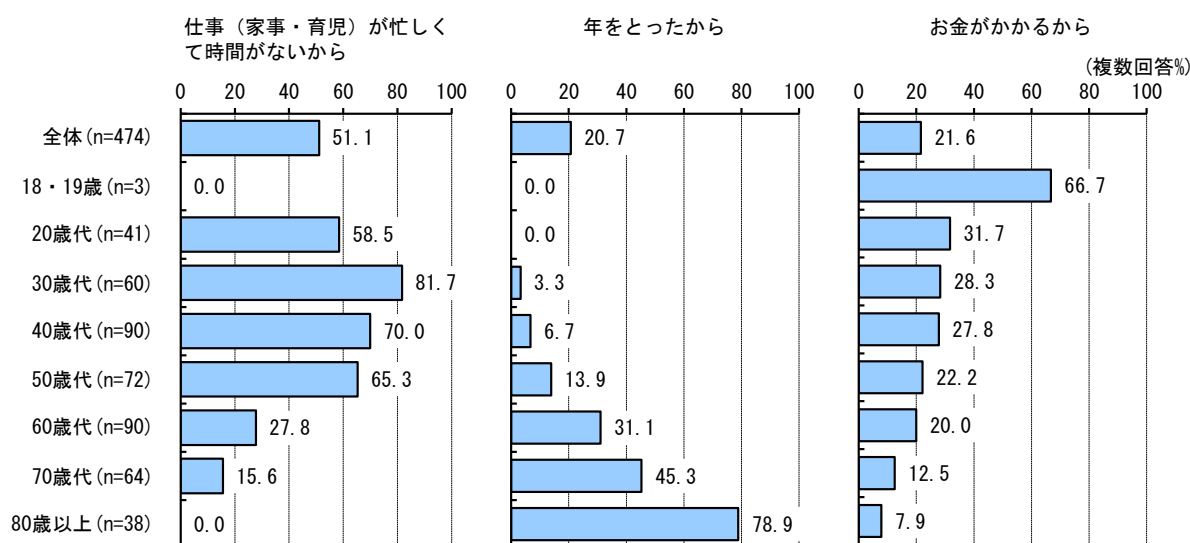
◆図6 スポーツの実施場所（年代別 上位3位）



⑤ スポーツをしなくなった理由

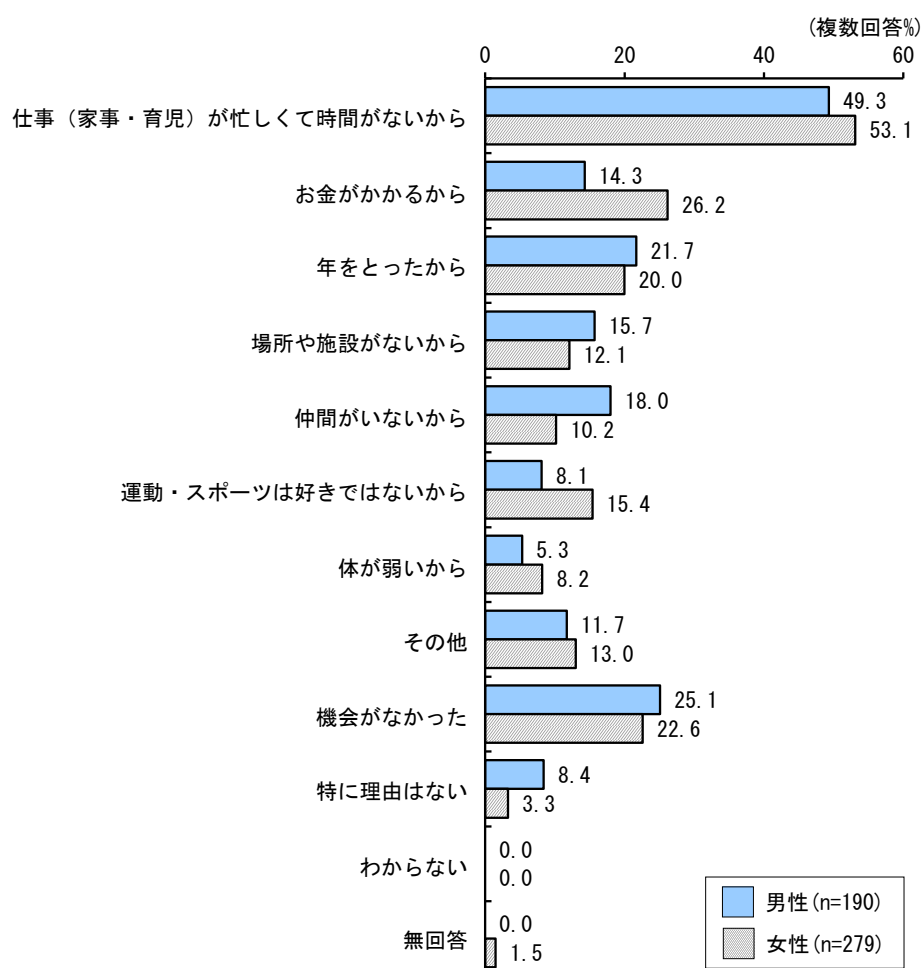
スポーツをほとんどしなくなった理由の上位は、全体では「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから」が51.1%で最も多く、次いで「年をとったから」(20.7%)、「お金がかかるから」(21.6%)となっています。「お金がかかるから」は18・19歳が66.7%で最も高く、若い世代ほどその割合が高い傾向がみられます。また30・40歳代では「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから」も多く、特に30歳代では81.7%で最も高くなっています。

◆図7 スポーツをしなくなった理由（年代別 上位3理由）



男女とも「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから」が最も多くなっています。また男性に比べ女性の割合がやや高く、子育てなどを理由にスポーツをしなくなった人も少なくないと考えられます。そのほか、男性に比べ女性の割合が高い理由は、「お金がかかるから」（26.2%）、「運動・スポーツは好きでないから」（15.4%）などです。「仲間がいないから」は男性の割合が高くなっています。

◆図8 スポーツをしなくなった理由（男女別）

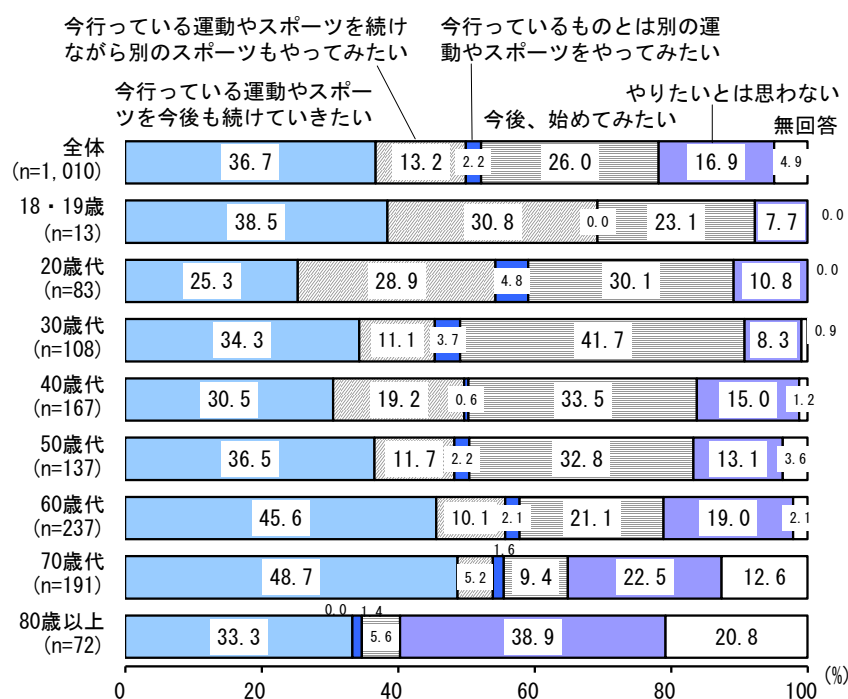


（２）今後のスポーツに対する実施意向

① 今後のスポーツの実施に対する考え、行いたい種目

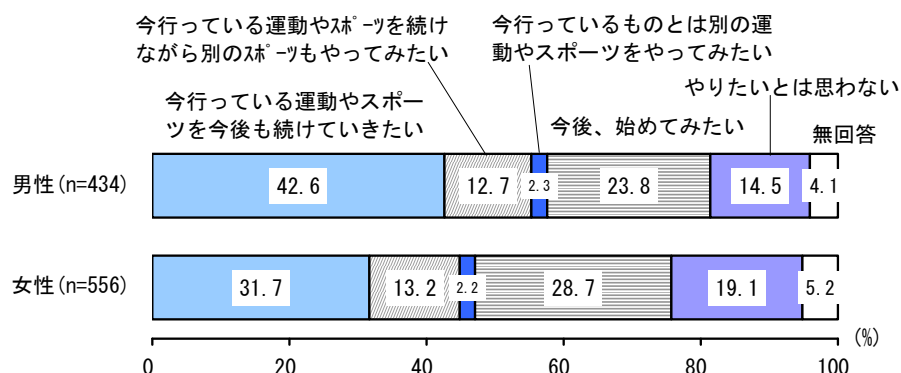
今後もスポーツを続けたい、または始めてみたい割合は、回答者全体の78.1%で、「やりたくないと思わない」の16.9%を大きく上回り、スポーツに対する実施意向は高くなっています。「今行っている運動やスポーツを今後も続けていきたい」の割合は60・70歳代が4割台、「今後、始めてみたい」の割合は30歳代が41.7%でそれぞれ高くなっています。

◆図9 今後のスポーツの実施に対する考え（年代別）



今後もスポーツを続けたい、または始めてみたい割合は、男性81.4%に対し女性75.8%で、男性の割合のほうがやや高くなっています。また、「今行っている運動やスポーツを今後も続けていきたい」の割合は男性42.6%に対し女性31.7%で、男性のほうが10ポイント程度高くなっています。

◆図10 今後のスポーツの実施に対する考え（男女別）



今後実施したい（続けたい）スポーツの上位3種目をみると、全体では「ウォーキング」が34.7%で最も多く、次いで「体操」（23.5%）、「室内運動器具を使ってする運動」（23.1%）となっています。年代別では、18・19歳、20・30歳代はスノースポーツやマリンスポーツ、水泳などのスポーツの実施意向が高くなっています。40歳以上の年代では「ウォーキング」が最も多く、年代が上がるに伴いその割合も上昇しています。

◆表3 実施したいスポーツの種目（年代別 上位3種目）

(複数回答)

全 体 (n=779)	①ウォーキング (34.7%)	②体操 (23.5%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (23.1%)
18・19 歳 (n=12)	①スキー、スノーボード (58.3%)	②水泳 (33.3%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (25.0%)
20 歳代 (n=74)	①ボート、ヨット、ボードセーリング、スキndaイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、釣り (25.7%)	②テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球 (21.6%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (20.3%)
30 歳代 (n=98)	①水泳 (33.7%)	②ランニング（ジョギング） (25.5%)	③ウォーキング (24.5%)
40 歳代 (n=140)	①ウォーキング (33.6%)	②テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球 (23.6%)	③水泳 (22.1%)
50 歳代 (n=114)	①ウォーキング (42.1%)	②体操 (31.6%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (28.1%)
60 歳代 (n=187)	①ウォーキング (47.6%)	②室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (27.3%)	③水泳 (25.7%)
70 歳代 (n=124)	①ウォーキング (50.0%)	②体操 (29.0%)	③室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (26.6%)
80 歳以上 (n=29)	①ウォーキング (44.8%)	②体操 (37.9%)	③キャッチボール、ドッジボール (10.3%)

男女とも実施したいスポーツの第1位は「ウォーキング」で、これに次いで男性では「室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど）」が、女性では「体操」となっています。

◆表4 実施したいスポーツの種目（男女別 上位3種目）

(複数回答)

男性 (n=232)	①ウォーキング (31.1%)	②室内運動器具を使ってする運動（筋力トレーニングなど） (23.8%)	③水泳 (21.2%)
女性 (n=255)	①ウォーキング (37.7%)	②体操 (33.8%)	③水泳 (23.8%)

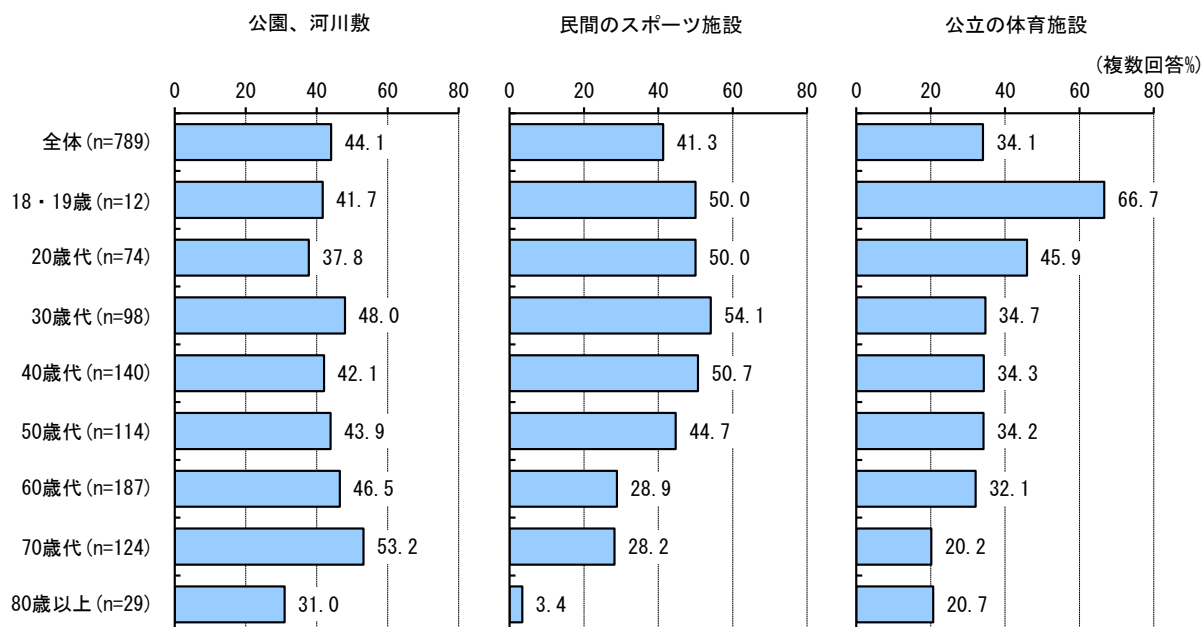
② スポーツを一緒に行いたい相手、実施場所

スポーツを一緒に行いたい相手は、「友人や知人」が55.6%で最も多く、次いで「一人で」(45.7%)、「家族」(39.7%)となっています。

スポーツを行いたい場所は、全体では「公園・河川敷」が44.1%で最も多く、次いで「民間のスポーツ施設」(41.3%)、「公立の体育施設」(34.1%)となっています。「民間のスポーツ施設」は20・30歳代の割合が高くなっています。「公園・河川敷」は70歳

代が53.2%で最も高く、「民間のスポーツ施設」は18・19歳と20～50歳代の幅広い年代層の割合が高くなっています。また、「公立の体育施設」は18・19歳が66.7%で最も高くなっています。

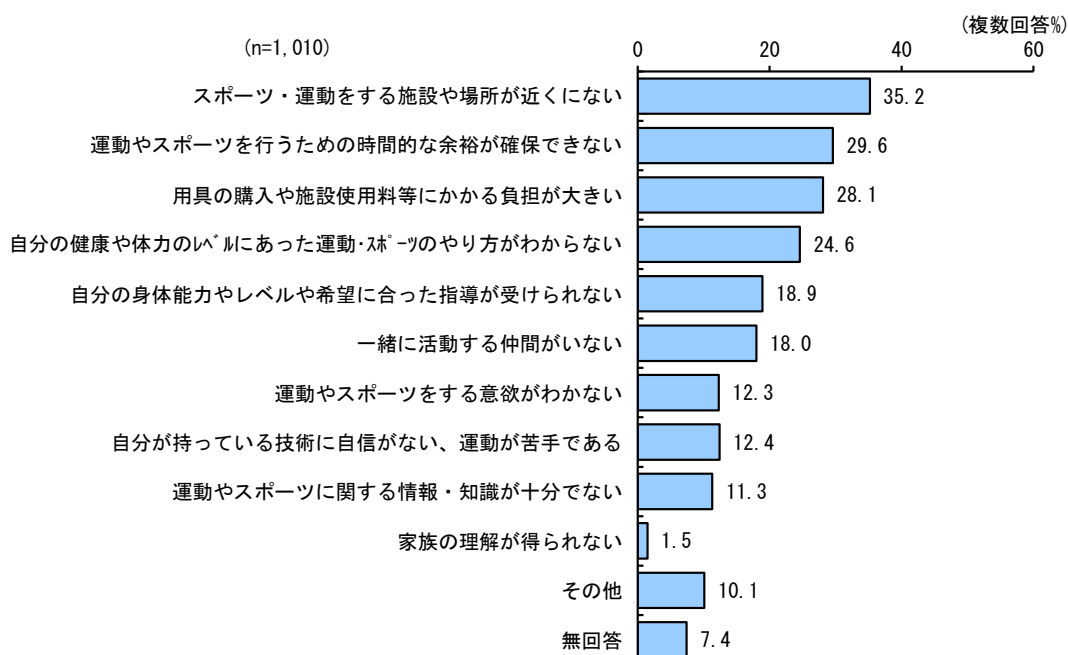
◆図 11 スポーツを行いたい場所（年代別 上位3位）



③ スポーツを行う場合に問題になると考えられること

「スポーツ・運動をする施設や場所が近くにない」が35.2%で最も多くなっています。これに次いで「運動やスポーツを行うための時間的な余裕が確保できない」が29.6%で、以下「用具の購入や施設使用料等にかかる負担が大きい」(28.1%)、「自分の健康や体力のレベルに合った運動・スポーツのやり方がわからない」(24.6%)と続いています。

◆図 12 スポーツを行う場合に問題になると考えられること（全体）



2 子どものスポーツ活動

(1) 幼児期におけるスポーツ活動

保育所（園）等では、厚生労働省の保育所保育指針に沿って、一人ひとりの子どもの発達に配慮した保育課程を作成し、低年齢から楽しんで取り組める運動遊びなどを通して、運動発達及び運動機能の獲得の援助や体力の向上につなげるための取組を行っています。

また、保育士等に対しては、運動遊びに関する実技研修や外部機関が実施する体操等の実技研修の受講を通じて、児童の発達に応じた運動機能が獲得できるよう保育能力の向上に努めています。

◆保育所（園）等におけるスポーツ活動に関する主な取組

- 体操・リトミックの実施
- 自由遊びやクラス活動での運動遊び（体育遊具、鬼ごっこ、ふれあい遊び等）を取り入れた保育の実施
- リレー（かけっこ）、縄跳び、フープ、ボール遊びや、歩くことを目的とした散歩や園外保育の実施

幼稚園等では、文部科学省の幼稚園教育要領を基に、園児の実態をふまえて、各園で教育課程を作成し、遊びを中心にした様々な体験の積み重ねを通して運動機能の獲得や体力の向上につなげるための取組を行っています。

また、幼稚園教諭等が子どもたちの発達に応じた運動機能に関する知識を獲得できるよう、運動遊び実技研修を実施し資質の向上を図っています。

さらに、各園でもそれぞれの特色を生かした研修を実施し、園児の実態を踏まえた運動指導のあり方について教員間の共通理解を深めるよう努めるとともに、小学校入学時において円滑な就学がなされるよう、小学校と情報を共有し、園児の体力向上を意識した運動や遊びを行っています。

◆幼稚園等におけるスポーツ活動に関する主な取組

- 体操・リトミックの実施
- 自由遊びやクラス活動に運動遊び（体育遊具、鬼ごっこ、ふれあい遊び等）を取り入れた教育の実施
- 冬季のマラソン（かけっこ）や縄跳び、歩くことを目的とした園外保育の実施

(2) 小・中学校におけるスポーツ活動

① 小・中学生の体力の状況

平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（以下「H27運動能力等調査」という。）の結果から、本市の小学5年生と中学2年生の種目別の体力測定結果をみると、小学校の児童では男子・女子ともに、50m走・立ち幅とび・ソフトボール投げが全国平均を上回っています。中学校の男子では、握力・ハンドボール投げ、中学校の女子においては、握力・50m走が全国平均を上回っています。

また、小学校の男子は、8種目中5種目、小学校の女子は同3種目、中学校の男子は同7種目、中学校の女子は同4種目で、大阪府平均を上回っています。

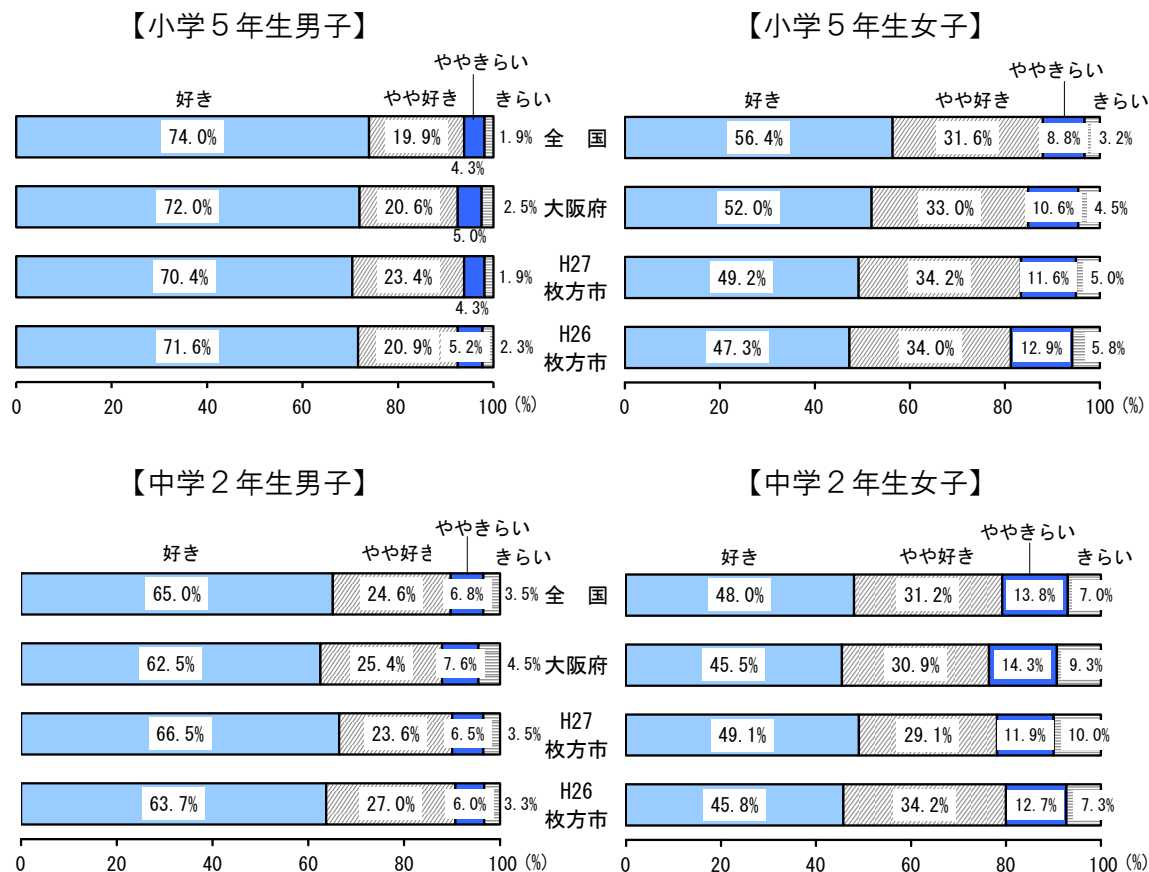
② 小・中学生の運動や体育活動に関する考え

（運動をすることの好き嫌い）

H27運動能力等調査の結果から、運動をすることの好き嫌いについてみると、小学校の児童では、運動が「好き」「やや好き」の割合は男子・女子とも、全国平均を下回っています。中学校の生徒では、運動が「好き」「やや好き」の割合は男子で全国平均を上回っていますが、女子は下回っています。

また、運動が「好き」「やや好き」の割合は、小学校の女子のみ大阪府平均を下回っています。

◆図 13 運動することの好き嫌い



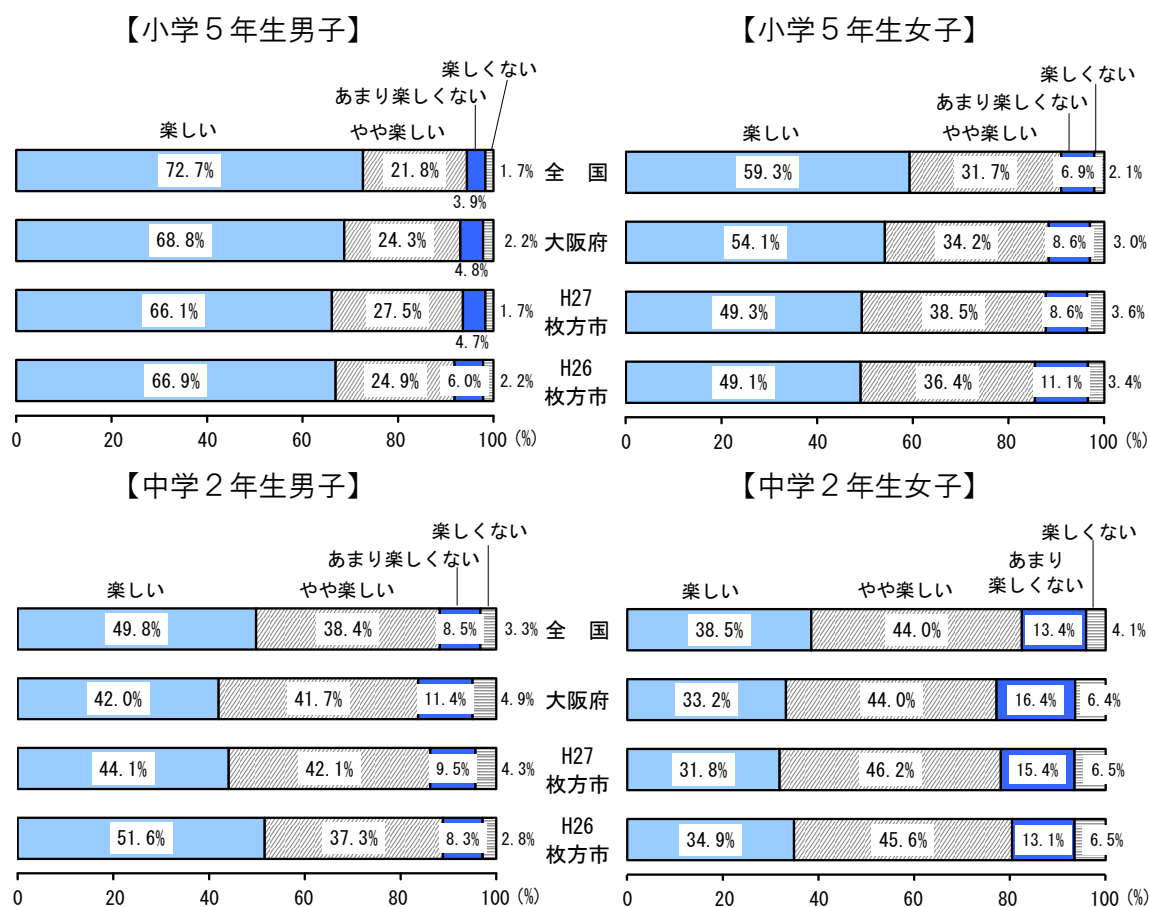
資料：平成27年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

(体育・保健体育の授業の楽しさ)

H27運動能力等調査の結果から、体育・保健体育の授業が楽しいかたずねたところ、小学校の児童では、体育・保健体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」の割合は男子・女子ともに全国平均を下回っています。中学校の生徒でも、「楽しい」「やや楽しい」の割合は男子・女子ともに全国平均を下回っています。

また、体育・保健体育の授業が「楽しい」「やや楽しい」の割合は、小学校女子のみ大阪府平均を下回っています。

◆図 14 体育・保健体育の授業の楽しさ

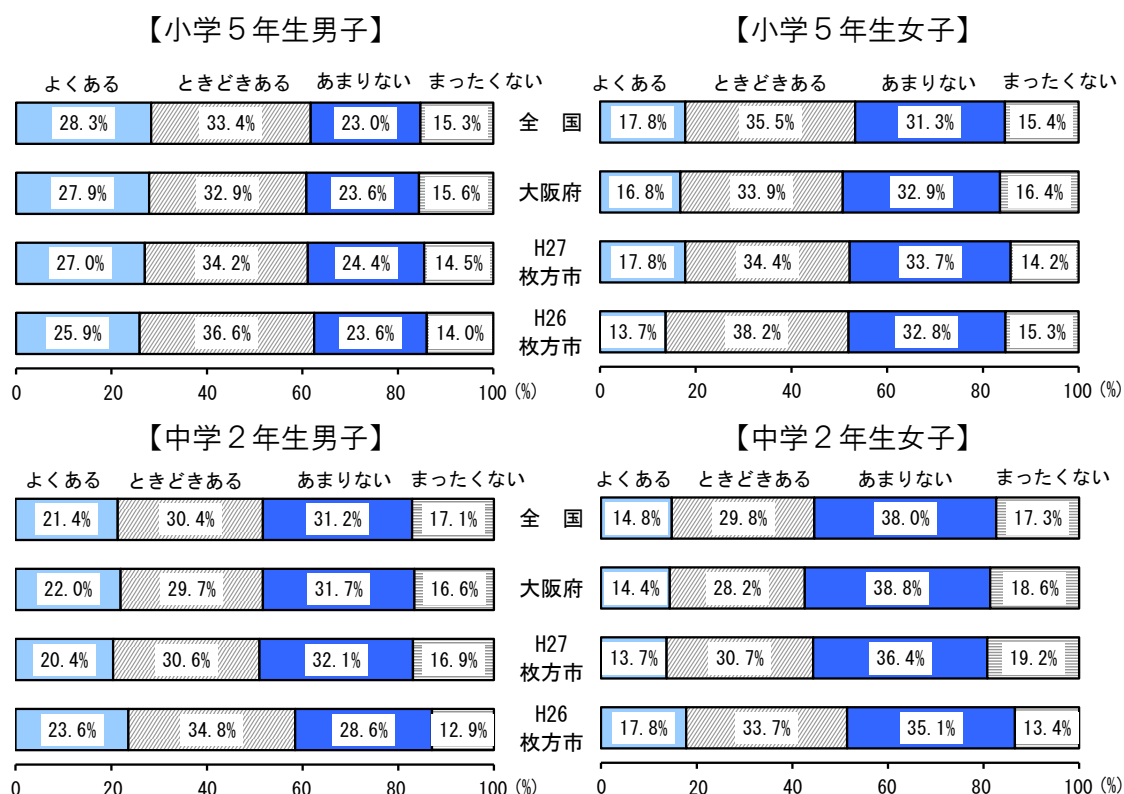


資料：平成 27 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

(家族からの積極的な運動のすすめの有無)

H27運動能力等調査の結果から、家族からの積極的な運動のすすめがあったかどうかをたずねたところ、「よくある」「ときどきある」の割合は、小学校の男女、中学校の女子では全国平均を下回っていますが、大阪府平均を上回っています。中学校の男子は、全国及び大阪府平均を下回っています。

◆図 15 家族からの積極的な運動のすすめの有無



資料：平成27年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

(3) スポーツ少年団の活動

スポーツ少年団は、昭和37年に日本体育協会が創設した日本最大の青少年スポーツ団体で、スポーツを通じて青少年の健全育成に重点を置いた活動を全国で展開しています。

本市では、昭和38年に日本スポーツ少年団に登録し、今日まで50年間以上にわたって活動し、現在、野球・サッカー・バレーボール・空手・日本拳法・少林寺拳法の部会が活発に活動しています。

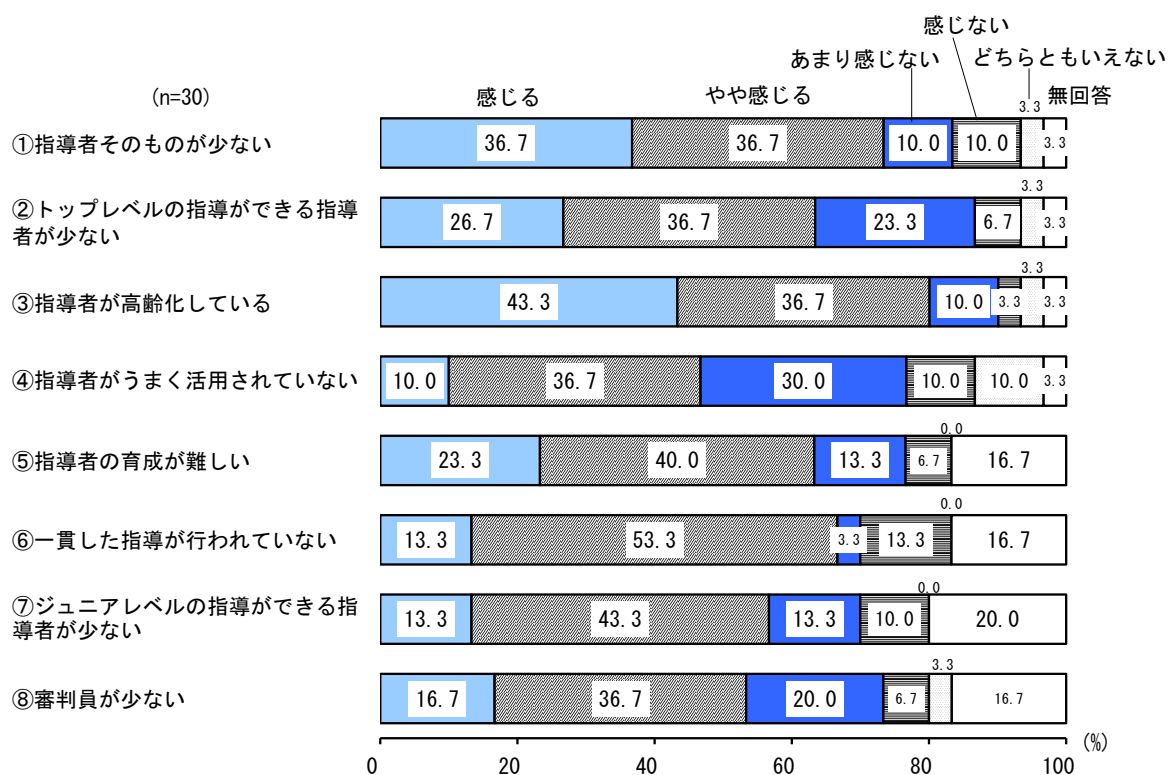
スポーツ少年団の加盟団体数は平成22年度の58団をピークに、平成27年度は55団に減少し、また団員数も平成22年度の1,614人をピークに減少傾向にあり、平成27年度は1,395人となっています。

平成28年度に実施した「松方市運動やスポーツに関する関係団体アンケート調査」（以下「H28関係団体アンケート」という。）の結果から、ふだんの活動を通じて感じている指導者など人材上の問題点についてみると、「指導者が高齢化している」と感じる割合が80.0%を占め、「指導者そのものが少ない」（73.4%）、「一貫した指導が行われていない」（66.6%）、「トップレベルの指導ができる指導者が少ない」（63.4%）、「指導者の育成が難しい」（63.3%）などの割合が高くなっています。

◆H28 関係団体アンケート調査実施概要

調 査 対 象	枚方体育協会加盟団体・枚方市スポーツ少年団・枚方レクリエーション協会計 89 件
調 査 方 法	郵送調査等
調 査 期 間	スポーツ少年団：平成 28 年 7 月 22 日～8 月 10 日 枚方体育協会加盟団体・枚方レクリエーション協会： 平成 28 年 8 月 4 日～8 月 22 日
回 収 率	60.7% (54 件/89 件)

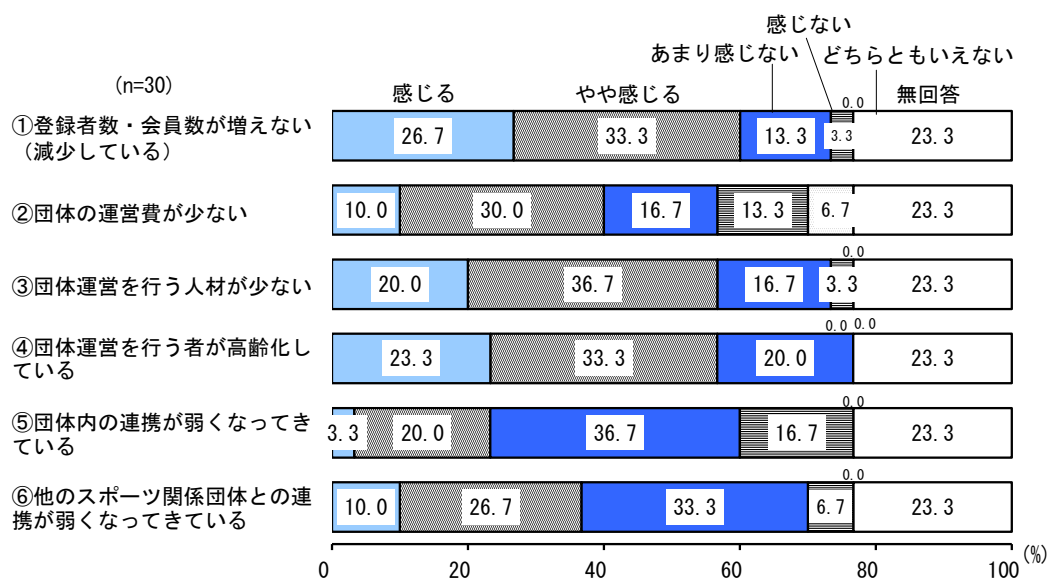
◆図 16 人材上の問題点（スポーツ少年団）



資料：平成 28 年度 枚方市運動やスポーツに関する関係団体アンケート調査

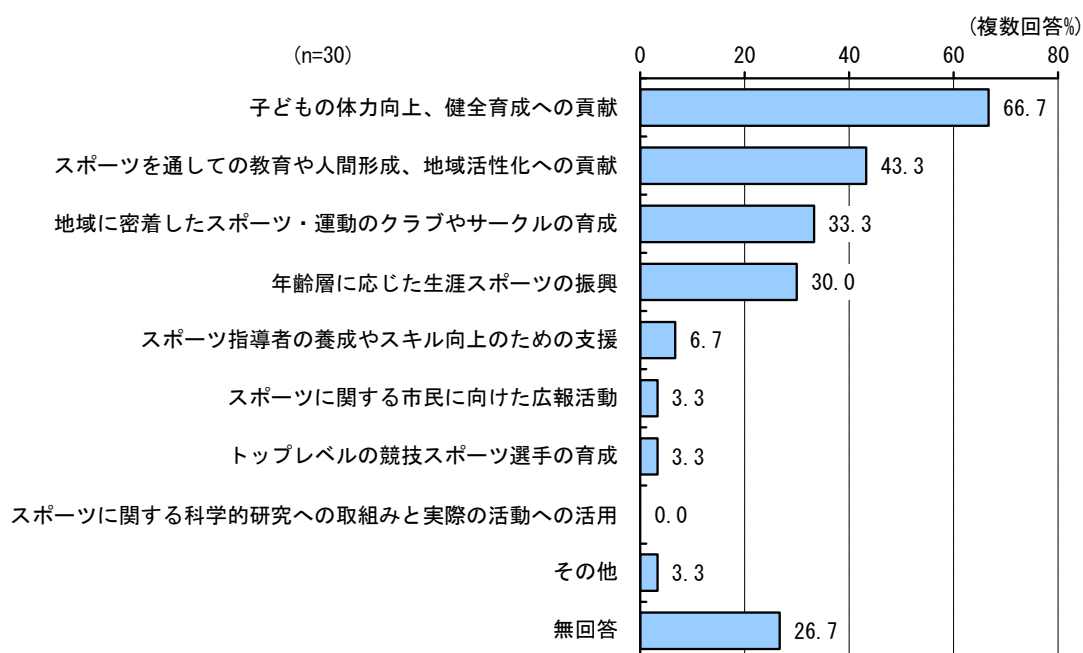
また、ふだんの活動を通じて感じている運営上の問題点をH28関係団体アンケートの結果からみると、「登録者数・会員数が増えない（減少している）」と感じる割合が60.0%で最も高く、「団体運営を行う人材が少ない」（56.7%）、「団体運営を行う者が高齢化している」（56.6%）などの割合が高くなっています。

◆図 17 運営上の問題点（スポーツ少年団）



H28関係団体アンケートで、今後本市においてスポーツを推進するにあたり、スポーツ少年団の役割についてたずねたところ、「子どもの体力向上、健全育成への貢献」が66.7%で最も多く、次いで「スポーツを通しての教育や人間形成、地域活性化への貢献」（43.3%）で、以下「地域に密着したスポーツ・運動のクラブやサークルの育成」（33.3%）、「年齢層に応じた生涯スポーツの振興」（30.0%）が続いています。

◆図 18 今後のスポーツ推進における団体の役割（スポーツ少年団）



(4) スポーツの指導者の状況

スポーツ少年団や中学校での部活動指導者を対象に、子どもへの指導にあたっての現状と課題を把握することを目的に実施した「平成28年度 枚方市運動やスポーツに関する指導者アンケート調査」（以下「H28指導者アンケート」という。）の結果から、指導者の考え方や意見等の概要をみると次のとおりとなっています。

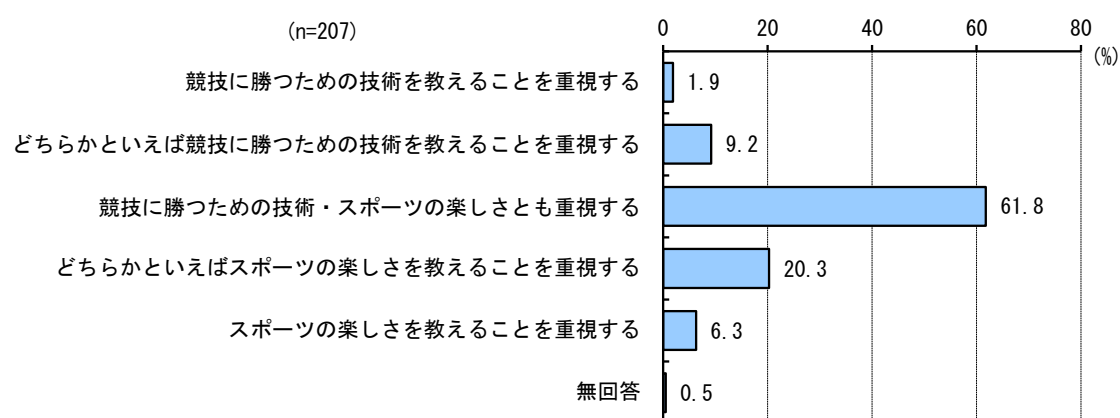
◆H28 指導者アンケート調査実施概要

調 査 対 象	枚方市スポーツ少年団・公立中学校部活動顧問 計 294 件
調 査 方 法	郵送調査等
調 査 期 間	スポーツ少年団 : 平成 28 年 7 月 22 日～8 月 10 日 中学校部活動顧問: 平成 28 年 8 月 10 日～8 月 24 日
回 収 率	70.4% (207 件/294 件)

① 指導方法に対する考え方

指導方法についての考え方は、「競技に勝つための技術・スポーツの楽しさとも重視する」が61.8%で最も多くなっています。

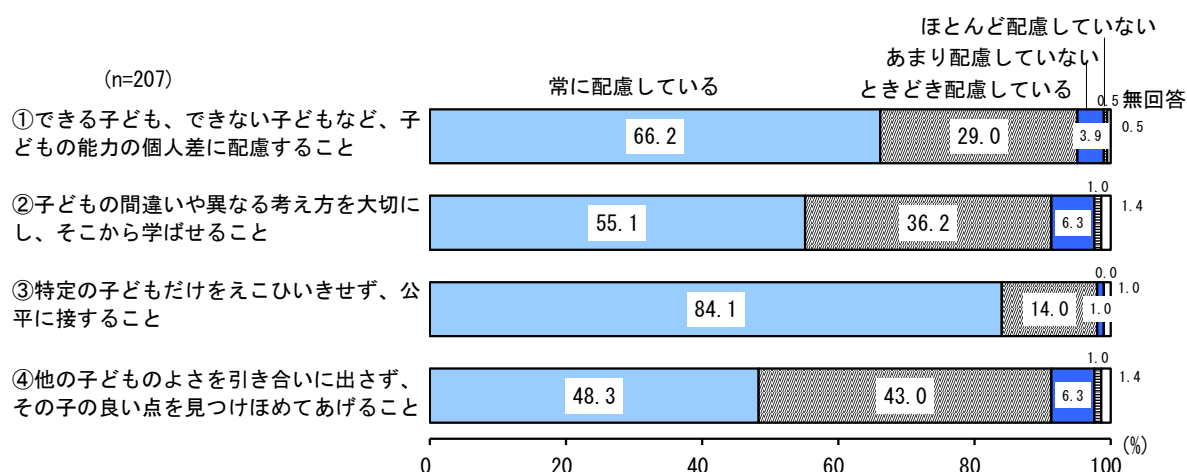
◆図 19 指導方法に対する考え方



② 指導にあたって配慮して取り組んでいること

指導にあたって、特に「特定の子どもだけをえこひいきせず、公平に接すること」に常に配慮する割合が84.1%で最も高くなっています。これに対し、「他の子どものよさを引き合いに出さず、その子の良い点をほめてあげること」の割合は48.3%で最も低くなっています。

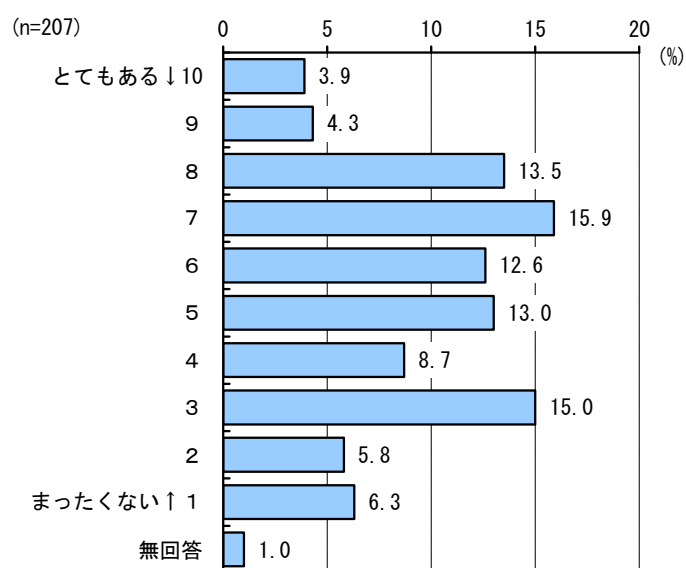
◆図 20 指導にあたって配慮して取り組んでいること



③ 指導技術に対する自信

指導技術に対する自信について自己採点してもらったところ、6点以上は全体の50.2%に対し、6点未満は48.8%となっています。

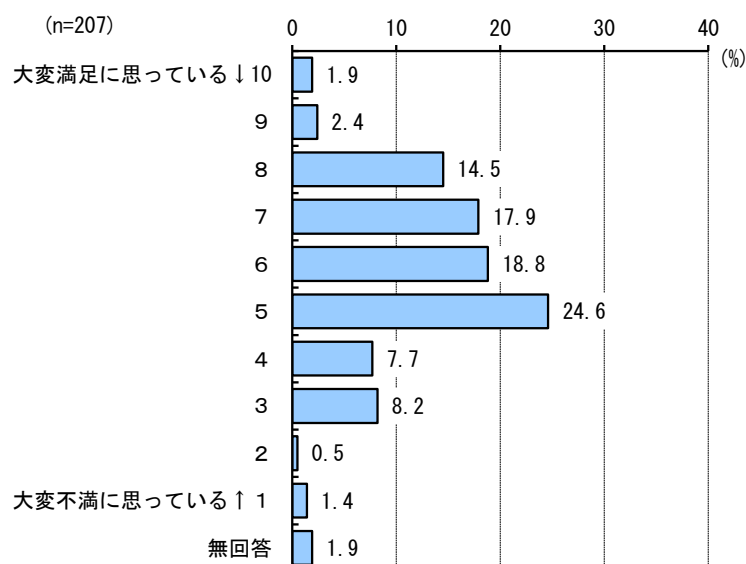
◆図 21 指導技術に対する自信



④ 指導技術に対する子どもの評価

指導技術に対する子どもからの評価について採点してもらったところ、5点が24.6%で最も多く、6点未満が42.4%となっています。一方、6点以上は55.5%となっています。

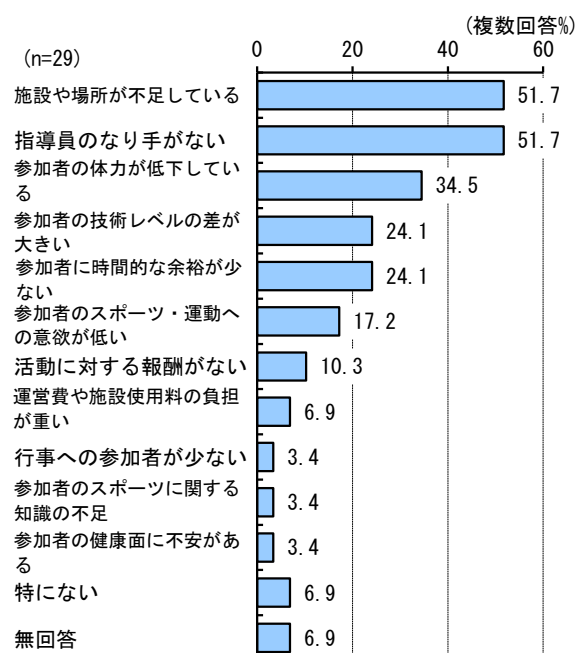
◆図 22 指導技術に対する子どもの評価



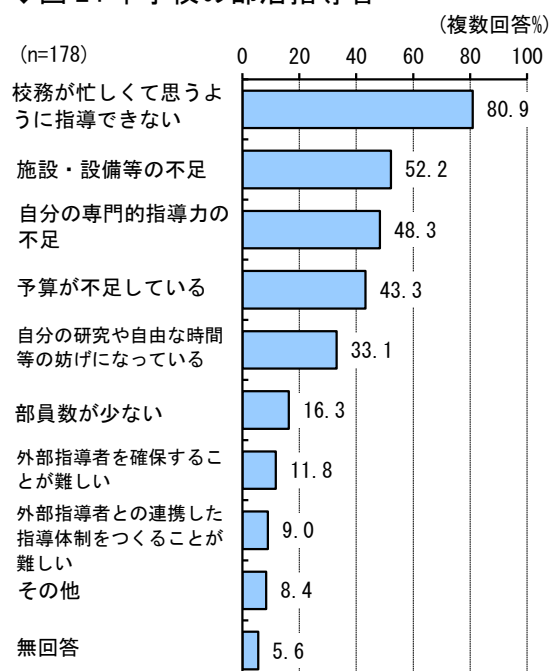
⑤ 指導上の問題点

スポーツ少年団の指導者では「施設や場所が不足している」「指導員のなり手がない」が半数を占めています。中学校の指導者では「校務が忙しくて思うように指導できない」が80.9%を占め、これに次いで「施設・設備等の不足」(52.2%)、「自分の専門的指導力の不足」(48.3%)が半数前後となっています。

◆図 23 スポーツ少年団



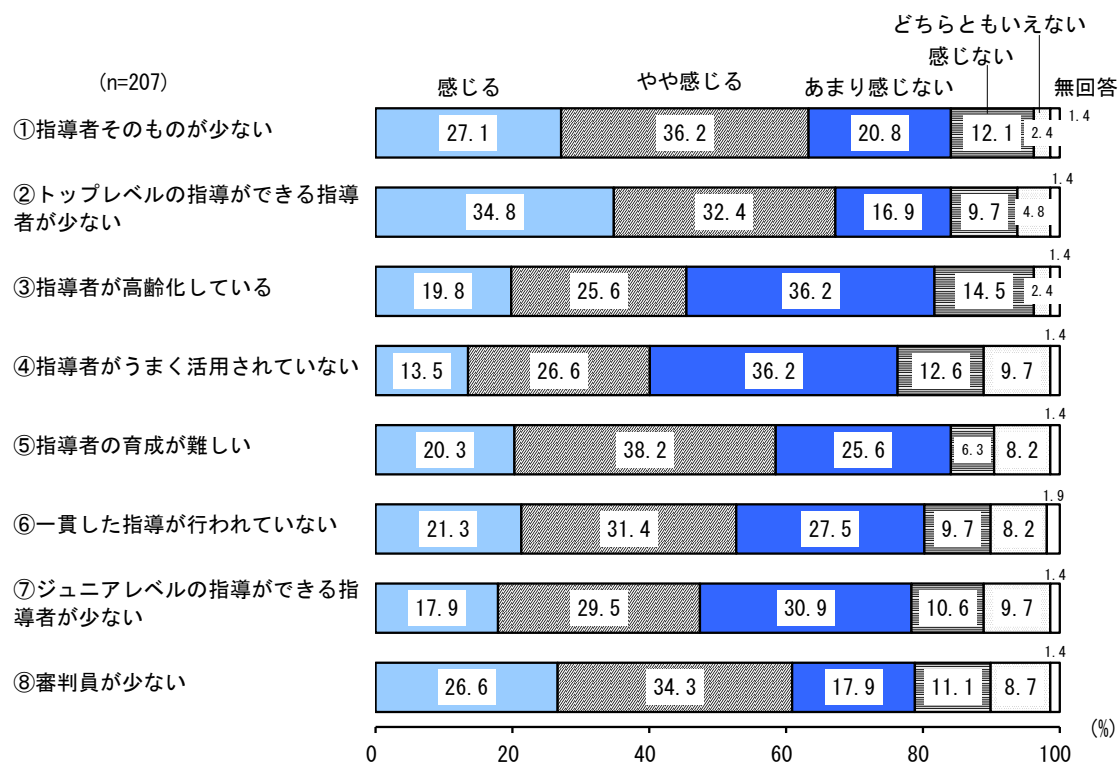
◆図 24 中学校の部活指導者



⑥ 人材上の問題点

ふだん活動を通じて感じている指導者などの人材上の問題点をみると、「トップレベルの指導ができる指導者が少ない」と感じる割合が67.2%で最も高く、これに次いで「指導者そのものが少ない」(63.3%)で、以下「審判員が少ない」(60.9%)、「指導者の育成が難しい」(58.5%)、「一貫した指導が行われていない」(52.7%)が続いています。

◆図 25 人材上の問題点



3 スポーツ活動の状況

(1) 地域におけるスポーツ活動

本市では、市内45小学校区単位を基本に校区コミュニティ協議会が組織されています。校区コミュニティ協議会では、それぞれの地域の特性に応じ、健康・スポーツ事業を実施しており、平成26年度は「グラウンド・ゴルフ」を23校区で46回、「区民体育祭・こども運動会」を30校区で32回開催されています。

これらの行事・イベントのほか、「ウォーキング・歩こう会」や「ラジオ体操」などを、校区ごとで実施回数にばらつきがありますが、年間10回以上開催されています。

写真掲載

(2) 高齢者スポーツ

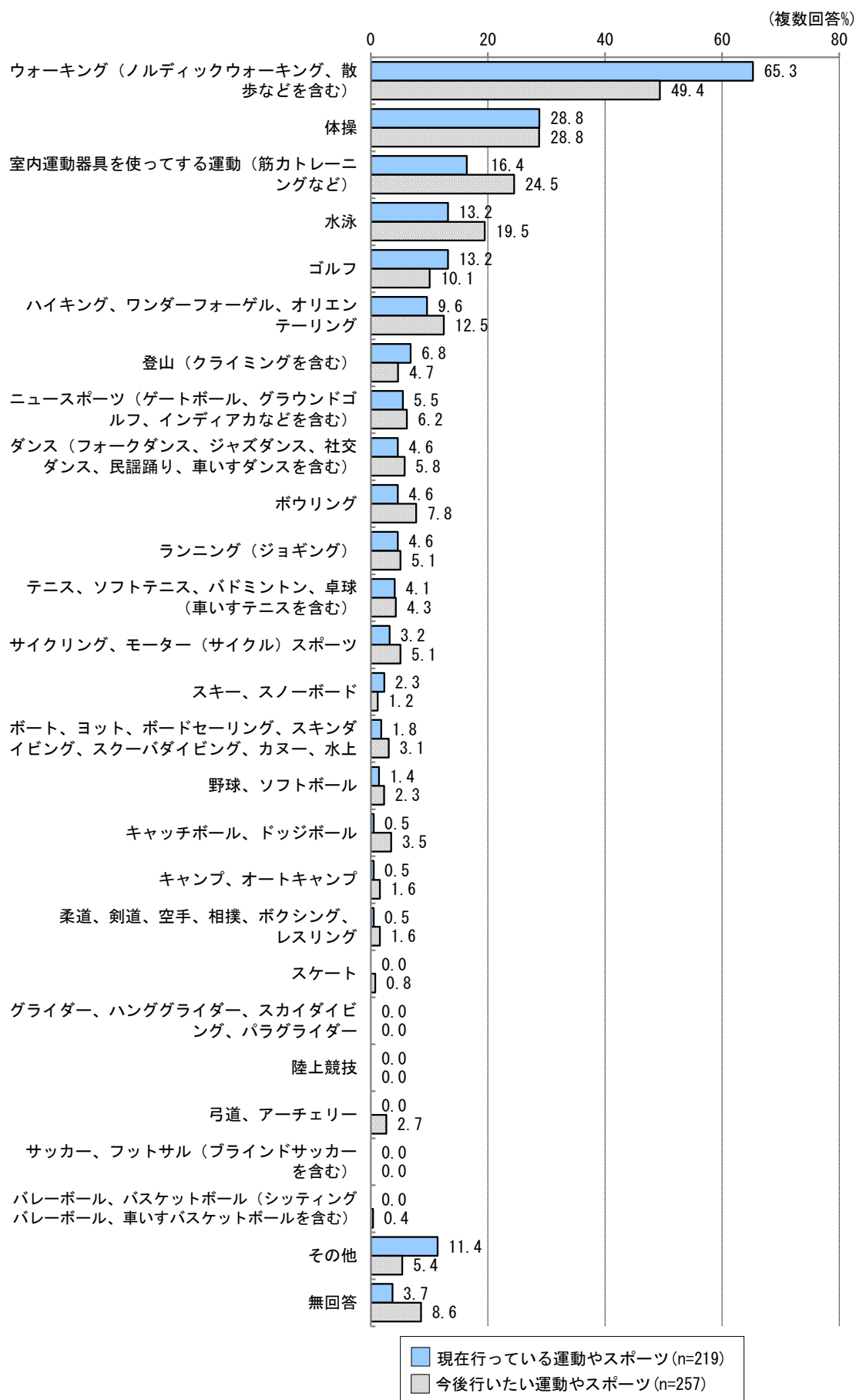
高齢者の健康増進を目的に、様々な運動やニュースポーツの参加機会の提供、運動教室・運動の実技指導などを通じた要介護（要支援）状態になることへの予防など、健康寿命の延伸をめざす介護予防事業を実施しています。

H28市民アンケートの結果では、65歳以上の年代層が実施しているスポーツは、「ウォーキング」や「体操」が上位を占めています。

同じく市民アンケートの結果から、65歳以上の年代層が今後行いたいスポーツをみると、「ウォーキング」が5割を占めています。「体操」や「室内運動器具を使ってする運動」も高齢者のニーズが高くなっています。

写真掲載

◆図 26 高齢者が行っているスポーツ／今後行いたいと思っているスポーツ（65 歳以上）



資料：平成 28 年度 枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査

(3) 障害者スポーツ

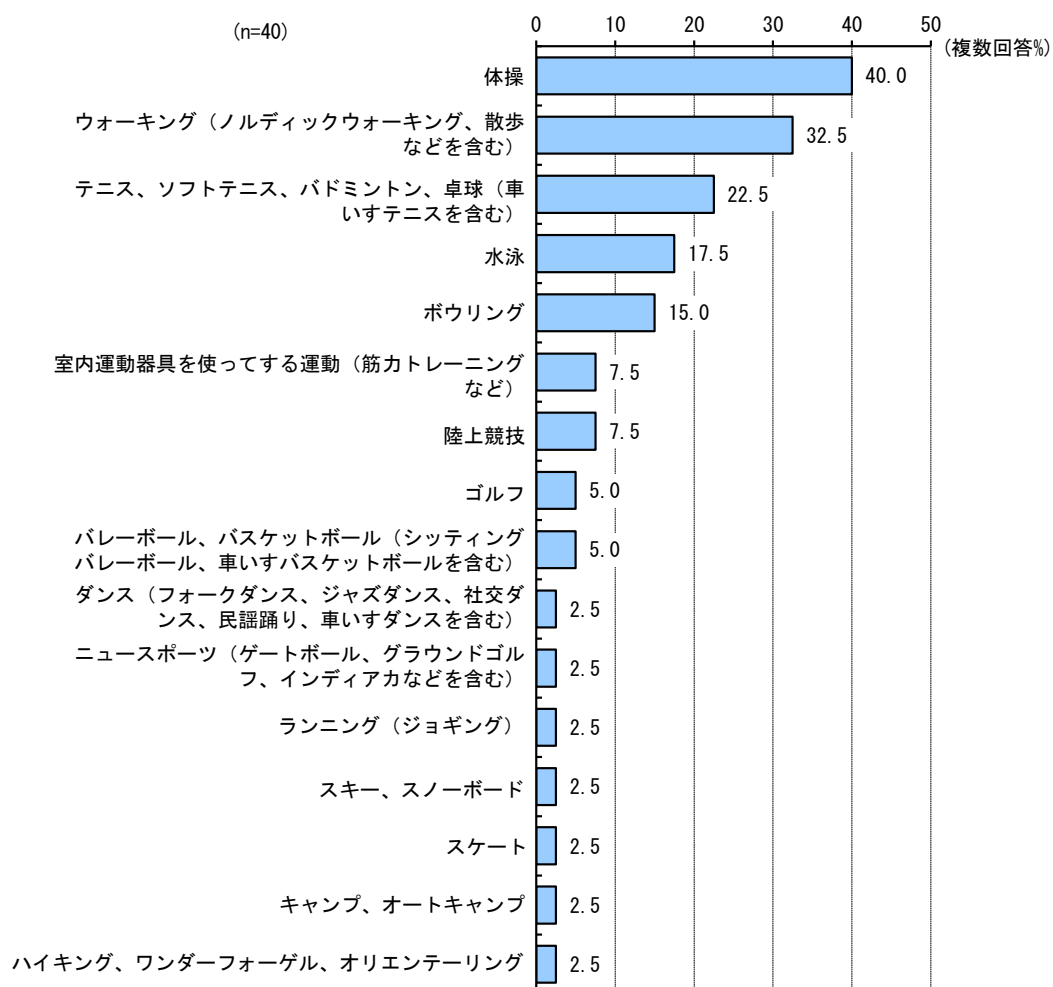
スポーツにおいても世界的にノーマライゼーションという障害の有無で区別されることなく、共存していくのが本来の姿であるという考え方が広がっています。本市では、障害者のスポーツ参加機会の確保やスポーツ活動・事業の支援として、プール開放や講習会・交流会などを実施しています。

H28市民アンケートの結果では、障害者が取り組むスポーツで最も多いものは、「体操」(40.0%)です。これに次いで「ウォーキング」(32.5%)が多く、以下「テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球」(22.5%)、「水泳」(17.5%)、「ボウリング」(15.0%)などが続いています。

また、今後行いたいスポーツは、「水泳」(37.2%)が最も多く、次いで「テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球」(25.6%)、「ウォーキング」「ボウリング」(23.3%)などです。

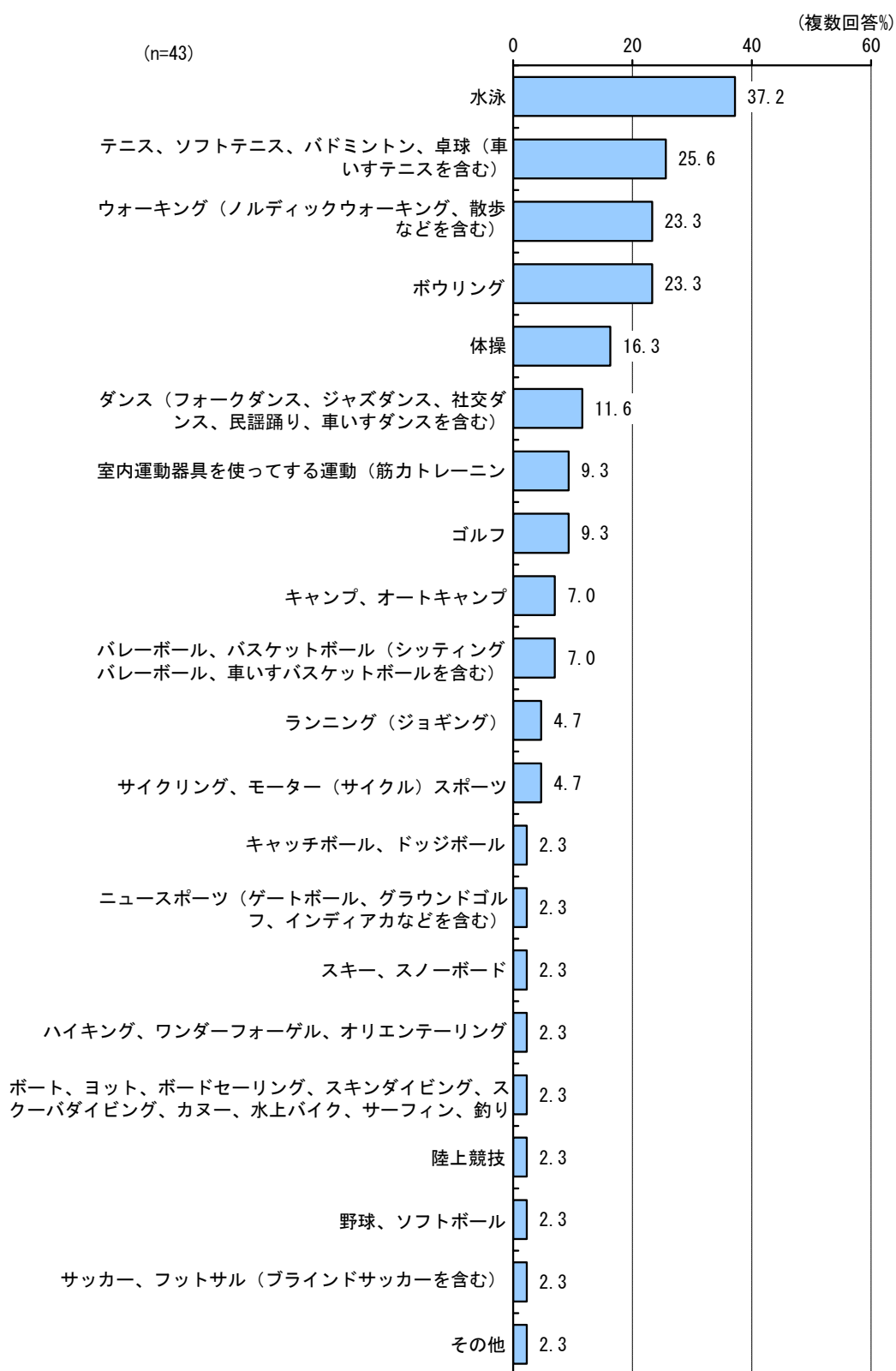
写真掲載

◆図 27 障害者が行っているスポーツ活動



資料：平成 28 年度 枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査（障害者対象）
※回答がなかった種目、無回答はグラフ表示から除いた。

◆図 28 障害者が今後行いたいと思っているスポーツ



資料：平成 28 年度 枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査（障害者対象）
※回答がなかった種目、無回答はグラフ表示から除いた。

(4) 競技スポーツの状況

本市では、枚方市春季・秋季総合体育大会、枚方市駅伝競走大会、小学生陸上競技大会・駅伝競走大会等を開催しており、全国大会にも多くの市民を輩出しています。

褒賞制度としては、「スポーツ及び文化等の褒賞に関する要綱」に基づき、全国規模以上の大会や競技会において優秀な成績を収めた市民に「市民スポーツ賞」を贈呈しています。

これまで、市民スポーツ賞最多受賞者は、「陸上競技」が28人で最も多くなっています。このほかにも「水泳競技」や「卓球」でも受賞者を輩出しています。また、本市では、ラグビーの強豪校が活躍し、ラグビーカーニバルを開催するなど、「ラグビーのまちひらかた」として知られています。

市内に拠点を置くプロスポーツチームは、パナソニックパンサーズ（バレーボール）のほか、関西サッカーリーグのF C TIAMO 枚方（サッカー）の2チームで、賞品提供やスポーツ教室、市の行事への参加などを通じて地域に貢献していただいています。

また、北河内地区総合体育大会における本市の総合順位は、平成15年度大会から平成27年度まで13年連続で第1位となっています。



写真掲載

(5) スポーツ関係団体等の状況

① 公益財団法人枚方体育協会

スポーツの普及と競技スポーツの振興、市民の健康づくりに寄与することを目的に設立された公益財団法人枚方体育協会（以下「枚方体育協会」という。）では、その傘下に27の競技団体が加盟し、「健康スポーツ」、「生涯スポーツ（障害者、子ども、高齢者、性別など全ての世代を対象とした）」、「競技スポーツ」のすべてのスポーツを推進しています。

主な事業としては、総合体育大会をはじめとして各種スポーツ大会や様々な市民を対象としたスポーツ教室を実施、また、市内のスポーツ施設について指定管理者制度により施設管理を行うなど、本市におけるスポーツ振興及び推進の上で重要な役割を担っています。

また、子どもから高齢者まで自由に様々なスポーツ種目を楽しむことができる総合型地域スポーツクラブ「キングフィッシャーズスポーツクラブ」を設立・運営、また、スポーツサポーターズバンクを設立し、スポーツ指導者やボランティアの育成等を行い、スポーツ情報の提供、スポーツ団体への支援、及び医療機関と連携した健康スポーツや介護予防事業等を企画実施するなど、本市のスポーツ推進のためのパートナーとして不可欠な存在となっています。引き続き本市とパートナーシップをもって様々な事業を推進していく必要があります。

写真掲載

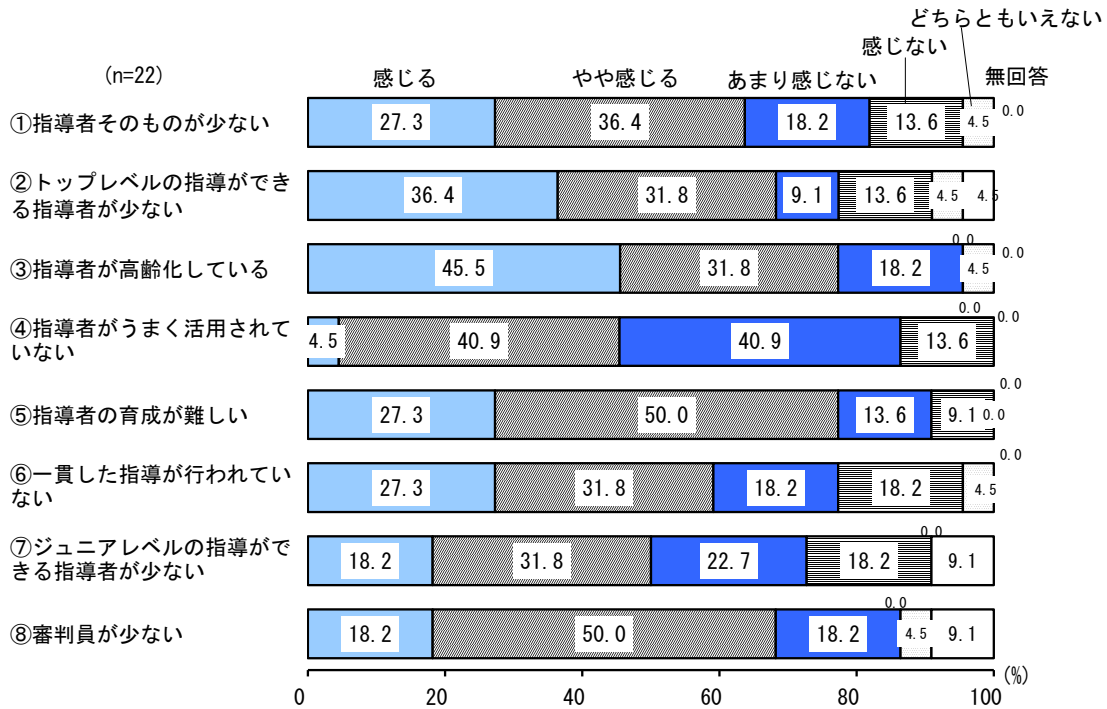
◆枚方体育協会の主な実施事業の概要

事業名		概要
市民スポーツ普及啓発事業	スポーツ大会事業	・春季秋季総合体育大会、北河内地区総合体育大会等への選手・役員等の派遣 ・「新春走ろうかい」（淀川河川敷での新春恒例行事）の主催 ・友好都市との交流事業 など
	スポーツ啓発事業	・スポーツ教室事業（楽 10 体操、ボディバランスチェック体験、健康ウォーキング（健康医療都市ひらかたコンソーシアムとの連携事業）） ・小中学生を対象としたトップアスリートとの交流事業の実施 ・高齢者の健康スポーツ教室等各種スポーツ教室の開催 ・スポーツサポーターズバンク事業（インストラクター・ボランティアの養成講座、フォローアップ研修、地域へのインストラクターの派遣、介護予防指導者講習会の開催）の実施 ・スポーツ振興特別事業（職員講習会、加盟団体によるスポーツ教室や審判講習会、指導者講習会）の実施 など
	スポーツ施設活用事業	・市内 4 施設の管理受託（指定管理者制度） ・民間企業の施設開放に伴う企業との調整、団体登録、利用申し込み受付の実施 など
総合型地域スポーツクラブの運営・支援事業		・定期活動として、11 種目（フットサル、ソフトテニス、ショートテニス、バレーボール、テニス、バドミントン、卓球、バスケットボール、軟式野球、ソフトバレーボール、基礎代謝向上組）について 1 週間に 1 回程度実施 ・スクール事業として、幼児からシニアを対象に 10 事業を実施 ・平成 28 年 3 月 31 日現在の会員数は 694 名。レギュラー区分 672 名（うち中学生以下 422 名）、ファミリー区分 22 名
法人の運営	役員会等の開催	・枚方体育協会の運営に係る会議として役員会、理事会、評議会等を開催 ・総務委員会・事業施設委員会により各種規約や事業について検討 など
	加盟団体との情報交換	・総合体育大会運営や加盟団体の活性化等に関する会議の開催 ・ワールド・カフェ形式による加盟団体間での課題等の情報交換の実施 など

② 各種競技団体

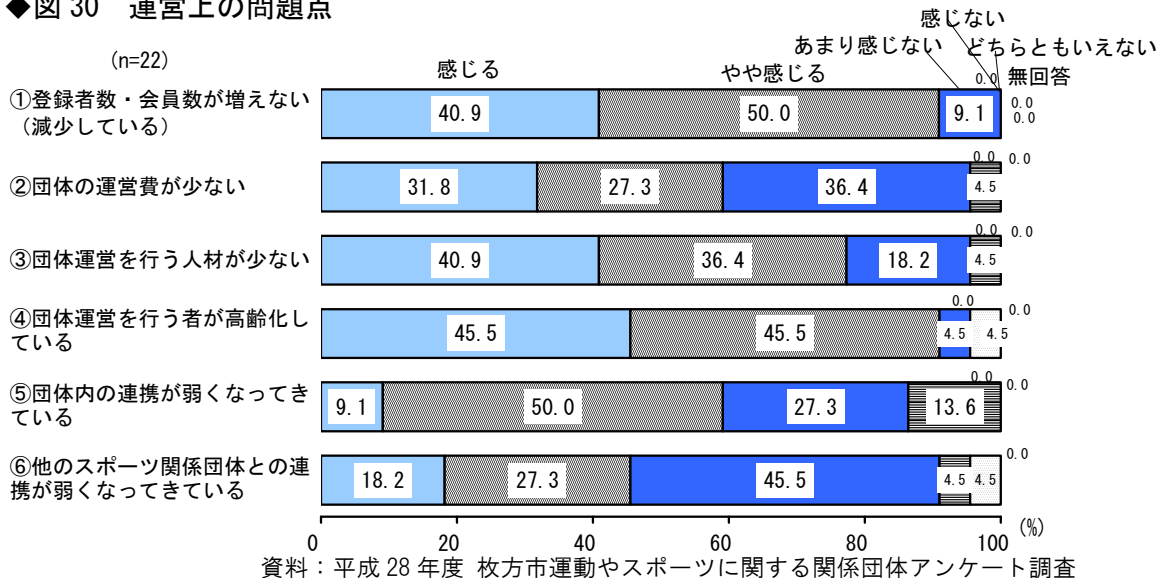
H28関係団体アンケートの結果から、ふだんの活動を通じて感じている指導者など人材上の問題点についてみると、「指導者が高齢化している」と「指導者の育成が難しい」と感じる割合がともに77.3%を占め最も高くなっています。これらに次いで「トップレベルの指導ができる指導者が少ない」「審判員が少ない」（ともに68.2%）となっています。

◆図 29 人材上の問題点



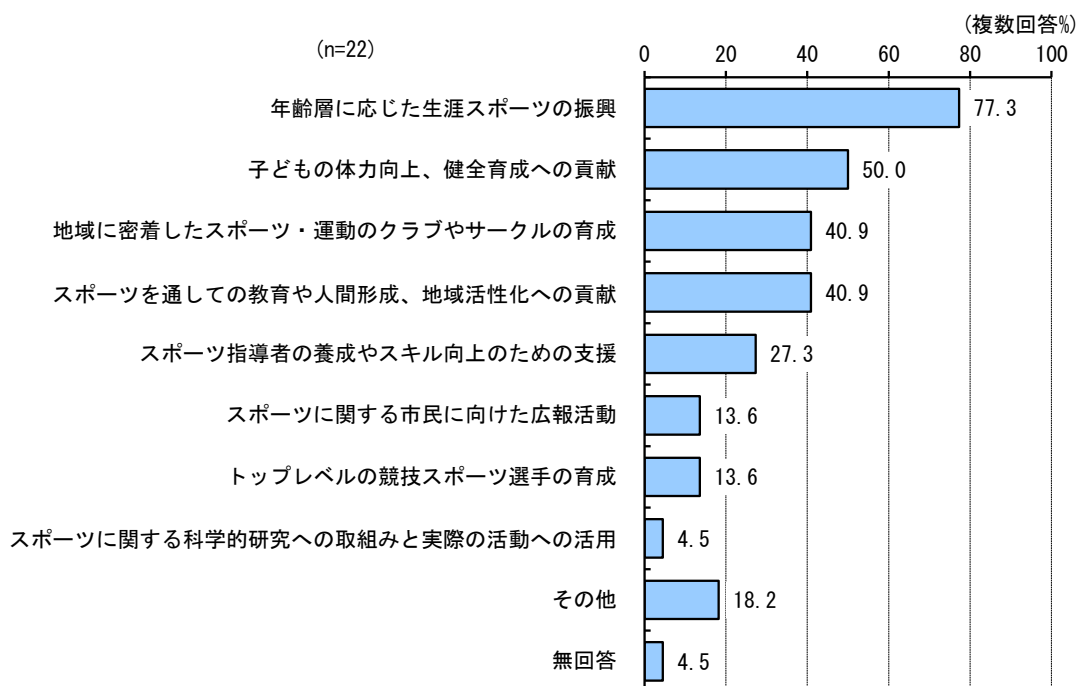
ふだんの活動を通じて感じている運営上の問題点をH28関係団体アンケートの結果からみると、「団体運営を行う者が高齢化している」と感じる割合が91.0%、「登録者数・会員数が増えない（減少している）」が90.9%とそれぞれ大部分を占めています。これらについて「団体運営を行う人材が少ない」（77.3%）となっています。

◆図 30 運営上の問題点



H28関係団体アンケートで、今後本市においてスポーツを推進するにあたり、体育協会加盟団体の役割についてたずねたところ、「年齢に応じた生涯スポーツの振興」が77.3%で最も多くなっています。これに次いで「子どもの体力向上、健全育成への貢献」（50.0%）で、以下「地域に密着したスポーツ・運動のクラブやサークルの育成」「スポーツを通しての教育や人間形成、地域活性化への貢献」（ともに40.9%）となっています。

◆図 31 今後のスポーツ推進における団体の役割



資料：平成 28 年度 枚方市運動やスポーツに関する関係団体アンケート調査

③ 枚方市スポーツ推進委員

スポーツ基本法に基づき、本市におけるスポーツの推進に係る体制の整備を図るため、スポーツ推進委員を委嘱しています。スポーツ推進委員は、地域においてスポーツ振興のための事業実施のコーディネート役割を担い、実技指導等の技能向上に努めるほか、市民の健康増進や体力向上に寄与するなどの幅広い活動を行っています。

また、ウォーキングイベント等の企画・運営を行うほか、「市民スポーツカーニバル」などのスポーツイベントに参加・協力し、多様化する市民のスポーツニーズに応えています。

平成28年6月1日現在の委員数は50名、校区コミュニティ協議会（地域）から推薦を受けた方を中心にスポーツ団体からの推薦や学校教職員などで構成されています。

しかしながら、45小学校中、スポーツ推進委員がいない校区が4校区あることや、地域によっては体育振興会などが組織されておらず、地域によって活動内容にばらつきが生じています。スポーツ推進委員が一人で活動する場合、大人数で行うイベントができないなど、それを解消するためのひとつに、平成26年度からブロック制をとっています。

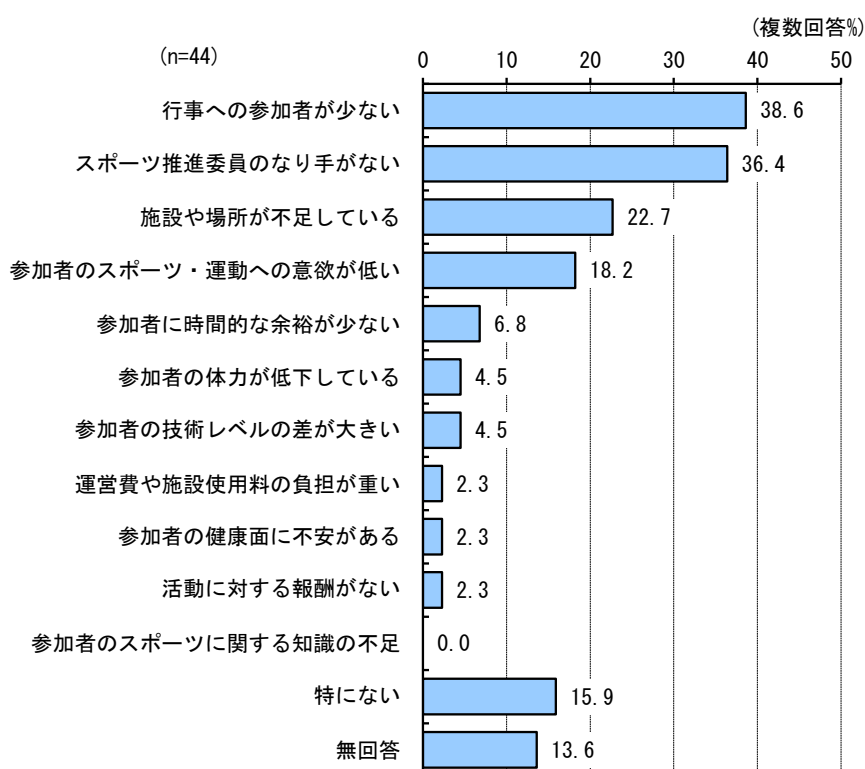
「平成28年度 枚方市運動やスポーツに関するスポーツ推進委員アンケート調査」（以下

「H28スポーツ推進委員アンケート」という。)の結果からスポーツ推進委員としての悩みや課題についてみると、「行事への参加者が少ない」が38.6%、「スポーツ推進委員のなり手が少ない」が36.4%で多くなっています。

◆H28 スポーツ推進委員アンケート調査実施概要

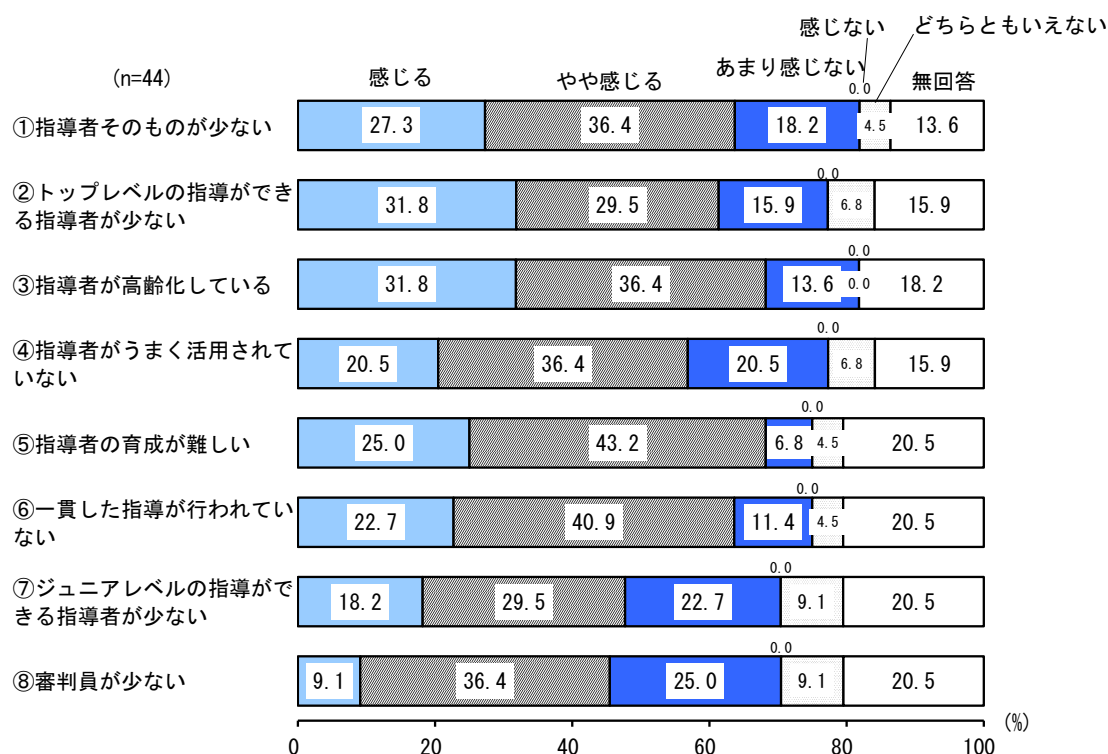
調 査 対 象	スポーツ推進委員 計 50 人
調 査 方 法	スポーツ推進委員全体会議で実施、郵送等
調 査 期 間	平成 28 年 7 月 13 日～7 月 29 日
回 収 率	88.0% (44 件/50 件)

◆図 32 スポーツ推進委員としての悩みや課題



同じくH28スポーツ推進委員アンケートの結果から、ふだんの活動を通じて感じている指導者など人材上の問題点についてみると、「指導者が高齢化している」と「指導者の育成が難しい」と感じる割合がともに68.2%を占め最も高くなっています。これらに次いで「指導者そのものが少ない」(63.7%)、「一貫した指導が行われていない」(63.6%)、「トップレベルの指導ができる指導者が少ない」(61.3%)となっています。

◆図 33 人材上の問題点



④ 枚方レクリエーション協会

枚方レクリエーション協会は、平成11年にソフトバレーボール、インディアカ、3B体操、グラウンド・ゴルフの4団体で発足しました。現在は、インディアカ、3B体操、ウォーキングの3団体で活動しています。各加盟団体の協力を得て、生涯スポーツの普及並びに振興のため、スポーツ・レクリエーション活動を通じ、市民の健康・生きがいづくりに寄与しています。

また、ニュースポーツの底辺拡充を図るとともに、誰もが参画できる開かれた組織づくりに努め、毎年、幼児から高齢者まで様々な世代が参加できる大会や教室を開催しています。

なお、枚方レクリエーション協会は、平成28年度末をもって組織としての活動が一旦休止となり、平成29年度以降は、その加盟団体がそれぞれの目的をもって個々の活動を継続していくことになっています。

4 今後の取組課題

国の動向並びに、これまで示してきた市民のスポーツ活動に関する実態や意識、市・関係団体のスポーツ推進のための施策等の現状を踏まえると、今後取り組むべき課題については、次のとおりです。

（１）健康増進・健康寿命の延伸をめざす生涯スポーツの推進

- 日常生活でスポーツを行う機会が少ない中高年層や子育て世代をターゲットに健康増進を図るためのスポーツに参加しやすい条件整備
- 超高齢社会を迎え介護が必要な状態を招かないよう、高齢者の健康づくりへの関心やニーズに応えることができる健康スポーツ、介護予防活動の充実
- 高齢者福祉・介護保険部門と保健部門、教育委員会社会教育部が連携し、部門横断的にスポーツ活動を推進するための体制づくり

（２）子どものスポーツ活動の充実

- 幼少時から親子でスポーツに親しむことができる機会の充実
- 子どものスポーツへの関心、体力・運動能力の向上をめざすスポーツ活動や体育授業の充実と指導者の資質向上
- 市民のスポーツに関する正しい知識や技術等を習得できる環境の整備と、そのためのスポーツ指導者の育成

（３）多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実

- 各ライフステージにおけるニーズ、地域の現状や特性に合わせたスポーツ活動の充実とスポーツをきっかけとした地域コミュニティの強化
- 個人や団体など実施形態に関係なく、個々のニーズに応じスポーツを継続して行える仕掛けづくり
- 障害者が多様なスポーツに出会える場の提供のほか、障害の種別や程度に応じて安心して気軽にスポーツに親しめる機会の充実や障害の有無に関係なく交流できる場づくり
- 男女共同参画の視点でのスポーツ活動への参加・参画機会の提供
- 既存のスポーツ施設の質的環境（新たなスポーツの促進や活動の底辺を拡大するための施設機能や設備）の充実
- 学校体育施設をはじめ既存のスポーツ施設の有効利用と効率的な運用
- 身近にスポーツや健康づくりができる公園や河川敷機能の充実

（４）スポーツ関係団体や企業と行政が協働したスポーツ推進体制の強化

- 団体の競技水準の向上を図るための支援体制の充実
- プロスポーツと市民が交流できる機会の充実
- スポーツ関係団体と行政の役割の明確化

第3章 枚方市のスポーツ推進に向けた取組

1 基本理念

少子高齢化の進展、生活の利便性の向上を背景に、スポーツに対するニーズは多様化しています。私たちが生涯にわたってスポーツに親しむことは、心身の健康の保持・増進や明るく豊かで活力に満ちた社会の形成にとって非常に重要なことです。

第5次枚方市総合計画の基本構想の中のまちづくりの5つの基本目標のひとつである「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」における施策目標「誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち」を踏まえ、次のとおり本計画の基本理念を設定します。

市民をはじめ、地域のスポーツに関わる関係団体、企業、行政が様々なスポーツ活動に取り組む際、この基本理念を活動の根拠とし、すべての市民がそれぞれの興味、体力、技能、目的等に応じて、生涯にわたってスポーツに親しめる取組を推進していきます。

【基本理念】

だれもが生涯にわたってスポーツに親しみ、
スポーツを通じて健康を増進し、
人と人との交流を深めることを支える

2 本計画の目標指標

国のスポーツ基本計画では、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進するための様々な取組を通じ、「成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（65%程度）、週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人（30%程度）となること」、また「成人のスポーツ未実施者（1年間に一度もスポーツをしない者）の数がゼロに近づくこと」を目標としています。

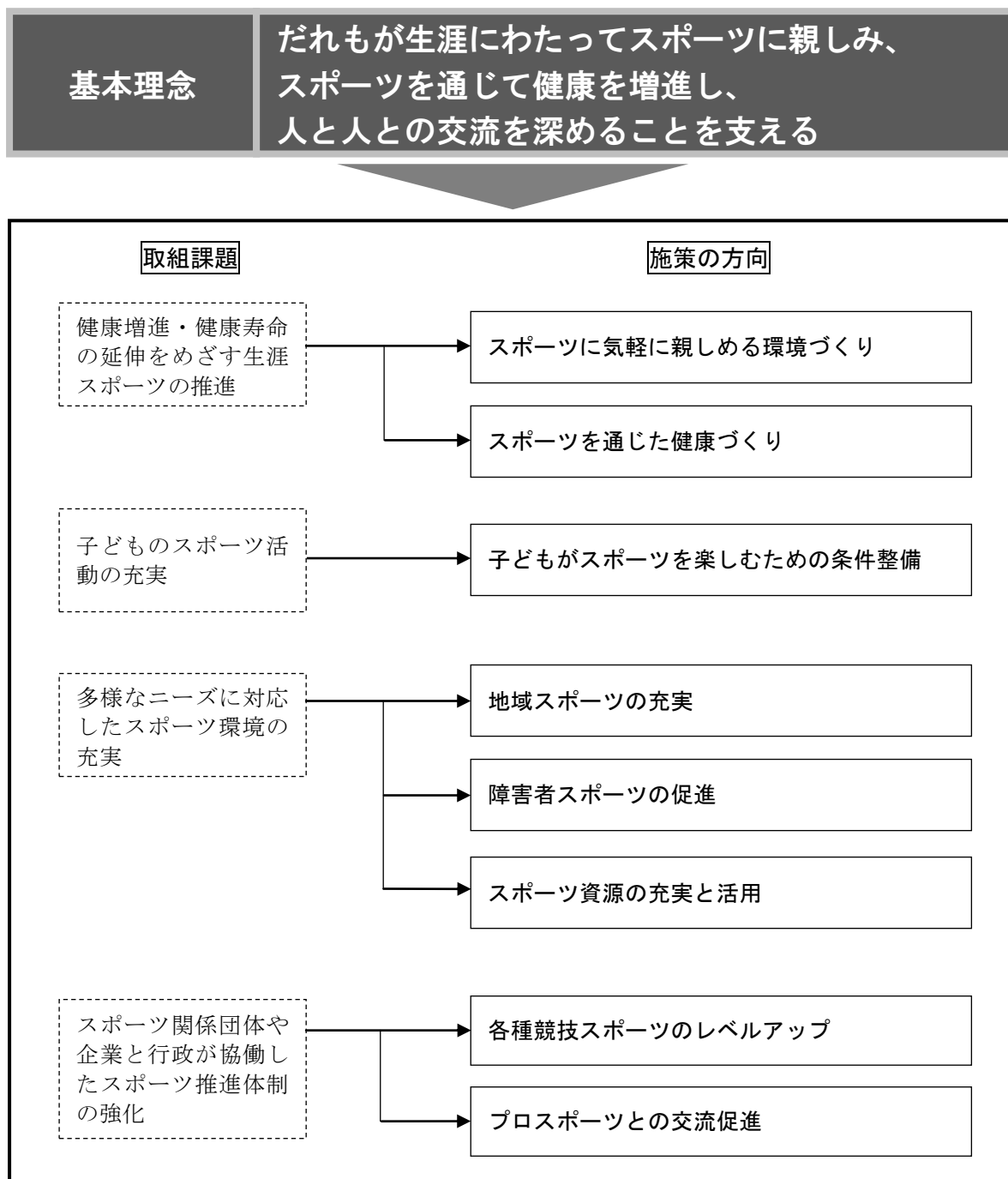
国の目標指標を踏まえ、本計画の進行管理のための指標を次のとおり設定し到達度を測り、取組状況を評価します。

指 標	現状 (基準値)	平成39年 までに
週1日以上スポーツに取り組む成人の割合	38%	65%程度
週3日以上スポーツに取り組む成人の割合	17%	30%程度

※基準値は「平成28年度 枚方市運動やスポーツに関するアンケート調査」の結果に基づく

3 課題解決に向けた施策の方向性

本計画では、前述の課題の解決に向けた施策の方向性を次のとおり定め、これらの方向性に沿って、市民をはじめ、地域やスポーツに関わる関係団体、事業者、行政が連携・協力し、効果的な取組を展開します。



4 施策展開の考え方

本計画の施策の方向を具体化する取組は、資料編1「枚方市の主なスポーツ事業一覧（平成27年度）」に掲げる各所管部門においてすでに実施している既存事業を基本に、スポーツを取り巻く環境の変化や市民のスポーツに対する意向・ニーズなどを踏まえ、毎年度、各所管部門が必要に応じ見直しを行いながら、新たに取り組むべき事業を立案し、より効果的な施策展開を図っていきます。

5 具体的施策

（1）スポーツに気軽に親しめる環境づくり

平日にスポーツ施設などに行くことが難しい、またスポーツに割く時間が取れない人を意識した日常生活での手軽なスポーツの普及・啓発のほか、高齢者の介護予防・健康づくりとしての身体活動、若年層の自由な身体活動に対する支援など、市民のだれもが気軽に身近でスポーツに取り組むことができる環境づくりを推進します。

① 市民のスポーツ活動の促進

平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに代表される大きな競技大会の開催をきっかけに、市民が様々なスポーツ活動に取り組むことを促す気運づくりのためのスポーツイベントの開催、普及・啓発活動を推進します。

取組の方向

- 関係団体と連携したスポーツイベントやスポーツ教室の開催
- 競技大会代表選手との交流

など

② 勤労世代や子育て世代の身近なところでのスポーツ実践への支援

勤労世代や子育て世代がスポーツを日常的に行うことができるよう、スポーツへの参加機会の充実とともに、日常生活で手軽に取り組めるスポーツの普及・啓発に取り組みます。

取組の方向

- 階段の昇り降りや自宅から駅までの徒歩での通勤、自宅で取り組める運動など、日常生活で手軽に行なえるスポーツに関する情報提供の実施
- 夜間・休日のスポーツ教室の充実や公共スポーツ施設への保育機能の提供
- 出産後の体力回復や子育て期の心身の健康保持のための運動・スポーツ機会の提供

など

③ 若年層の自由な身体活動の促進

義務教育終了後においても、サイクリングやテニス、バドミントンなど、仲間と自由に体を動かす活動をしたり、若者の自由な身体活動を促したりするための環境を充実します。

取組の方向

- 若者の自由な身体活動を行える場の創出と練習の成果を発揮できる機会の提供
- 若者のスポーツや身体活動を通じた地域活動への支援、活性化

など

④ スポーツに関する情報発信

市民に対し、運動やスポーツの有効性・必要性について市広報誌ホームページ等、様々な媒体や方法を通じ、継続的に普及・啓発を推進します。

また、ソーシャル・ネットワーキング・サービス等を活用した情報発信に取り組みます。

取組の方向

- 市広報誌・ホームページ等を活用したスポーツ関連記事の定期的な情報発信
- スポーツ推進期間の設定
- 関係団体と連携した広報活動の推進
- スポーツに関する相談支援・情報提供体制の充実
- 健康づくりに役立つ公園緑地の利活用の促進・情報提供の充実

など

(2) スポーツを通じた健康づくり

スポーツは、生活習慣病の予防やストレスの発散など、健康づくりの重要な要素のひとつであり、日常生活において意識的に身体を動かす習慣を身につけるよう市民への啓発を図ります。

また、市民の健康づくりを支援するため、「第2次枚方市健康増進計画」などの関連計画の事業と連携し、運動やスポーツへの参加を促す取組を推進します。

① スポーツを通じた成人の健康増進の推進

市民に対し、運動やスポーツの有効性・必要性について市広報紙やホームページ等、様々な媒体や方法を通じ、継続的に普及・啓発を推進します。

取組の方向

- 健康やスポーツに関する情報発信と市民意識の高揚
- ウォーキングなど手軽なスポーツを楽しみながら継続できるように、マップなどのツールやインセンティブの付与
- ウォーキングなど公園を活用した健康増進イベントの開催
- 健康づくり講座や運動・スポーツ教室の参加機会の充実
- 総合型地域スポーツクラブと連携した成人向けスポーツ活動の推進

など

② スポーツを通じた介護予防活動の推進

高齢化率が更に進んでいくなか、高齢期を迎えて要支援・要介護状態になることがないよう、軽度の運動やスポーツを取り入れた介護予防を推進します。

取組の方向

- 介護予防講座等の実施
- 老人クラブとの連携による健康づくりの推進
- ひらかた元気くらわんか体操等の普及

など

③ 地域でのスポーツ・レクリエーション活動の充実

高齢者自身の健康づくりや介護予防のための取組意欲の高まりを踏まえ、高齢者の健康増進や生きがいづくり、交流などを促進するため、スポーツ・レクリエーションへの参加機会を充実します。

取組の方向

- 高齢者レクリエーションのつどいの開催
- 健康運動を目的とした健康器具系公園施設の整備促進

など

(3) 子どもがスポーツを楽しむための条件整備

引き続き、体育の授業や運動部活動の充実に努めるとともに、ふだんから家族と一緒に
なってスポーツに親しめる環境づくりを推進し、運動やスポーツ好きな、心身ともにたく
ましい子どもを育成します。

① 家族等で楽しむスポーツ活動の充実

子どもたちが幼児期から家族や地域の身近な人々と一緒に運動やスポーツに親しむこと
を通じ、楽しい時間を享受し、スポーツへの関心を高め、生涯を通じて運動やスポーツを
継続することができる環境の整備・充実に努めます。

取組の方向

- 家族等でスポーツを楽しみ、体力づくりができるイベント等の充実
- 子どもたちの好奇心をひきつける外遊びやスポーツ体験の充実
- トップアスリートとの交流の機会づくり
- 子どもたちの冒険心をあおり、チャレンジ性の高い複合型公園遊具の整備促進
など

② 子どもを対象としたスポーツ活動の充実

幼児期から運動習慣が身につく、生涯を通じて運動やスポーツを継続することができる
よう、目的をもって運動やスポーツに取り組める機会を充実します。

取組の方向

- 体育協会やスポーツ推進委員等の関係団体と連携した幼児や小学生対象のス
ポーツ教室などの開催支援
- 地域における子どものスポーツができる環境づくり
- 中・高校生や若者が男女の区別なく参加し、継続できるスポーツの機会提供
- 男女共同参画の視点に配慮した指導や育成、スポーツ活動への参加機会の拡大
など

③ 幼稚園・保育所（園）、認定こども園、小・中学校等における体力向上の取組の 推進

これまで取り組んできた学校等における運動・スポーツに関連する事業の充実に努め
るとともに、児童・生徒や教員の体力向上に対する意識の高揚を図り、自ら積極的に身体を
動かす習慣を身につけ、運動やスポーツの好きな子どもの育成をめざして取り組みます。

取組の方向

- 幼稚園・保育所（園）、小・中学校等における体力向上の取組
など

④ 野外活動センターにおける青少年の健全育成

小・中学校の校外生活指導や市民の健康体力づくりを図るとともに、豊かな市民生活をおくる場としてセンターの活性化を図り、青少年の健全育成を図ります。

取組の方向

○子どもたちが自然とふれあえる野外教室など体験プログラムの充実

など

⑤ 学校部活動の充実

中学校の生徒が安心して部活動に取り組むことができるよう、学校体育施設の適切な維持管理や専門的な技術を指導できる地域の人材活用などの環境整備に取り組めます。

取組の方向

○学校体育施設の適切な維持管理

○既存の体育指導法の研修内容の充実、各種指導者研修会等に関する情報提供

○部活動外部指導者の派遣

など

(4) 地域スポーツの充実

スポーツ関係団体による地域におけるスポーツ活動の活性化をはじめ、子どもから高齢者まで、地域住民が主体的に参加・参画するスポーツイベントの機会を充実し、スポーツを通じた交流の場づくりを支援します。また、多様なスポーツイベント等を通じて、大会を支えるスタッフやボランティアの育成を図り、地域住民の自発的な活動の促進と地域の交流を深め、地域の一体感や活力の醸成を促します。

取組の方向

○地域の実情に応じた市民参加型スポーツ活動の推進

○スポーツ推進委員の地域におけるスポーツ活動への支援の充実

○ニュースポーツの研究・開発

○ニュースポーツの紹介・普及の推進

など

(5) 障害者スポーツの促進

リオオリンピック・パラリンピックの開催や平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、障害者スポーツに対する関心がさらに高まることが予想されます。障害があることを理由にスポーツをすることをあきらめることがないよう、障害者がスポーツと出会える機会の充実や参加できる場を創出し、障害者と健常者がスポーツを通じた交流の中で、ノーマライゼーションへの理解を高めること、また、配慮すべき事項が異なる障害に応じてスポーツができる条件整備の取り組みを進めます。

① 障害者スポーツ活動への支援の充実

障害者団体等が実施する交流会やレクリエーション活動等に対し、事業の充実が図れるよう支援に努めます。

取組の方向

- 障害者スポーツ大会などへの参加支援
- 障害者スポーツの指導者育成
- 障害者スポーツ環境の整備

など

② 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の充実

障害者が親しみやすく気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動を充実し、障害者の健康の保持・増進を図ります。また、障害のある人となない人が、スポーツを通じて交流できる機会を充実します。

取組の方向

- 障害児を対象としたスポーツ教室の開催
- 障害者スポーツ体験会の開催
- 大阪府障がい者スポーツ大会への参加促進
- 総合型地域スポーツクラブと連携した障害者（児）向けスポーツ活動の推進

など

(6) スポーツ資源の充実と活用

公共スポーツ施設については、老朽化等の状況に配慮し、市民が安全にスポーツ活動に親しめる環境を整えるため、効果的・効率的な施設の更新についての対応策のほか、ユニバーサルデザインの視点に立った施設整備を行うなど、スポーツ施設の利便性の向上を図ります。

また、学校体育施設や公園緑地及び市内企業の協力に基づくスポーツ施設の有効活用を図るとともに、大学などとも連携し、多くの市民が気軽にスポーツができる場の確保を図ります。

① スポーツ施設の整備・充実

市民のスポーツ環境を整えるため、公共スポーツ施設の状況や課題について把握、検討するとともに、既存のスポーツ施設及び設備を可能な限り長期間使用できるよう、ライフサイクルコストを踏まえた適切な維持管理を行います。

また、施設更新時には、多様なスポーツニーズに対応できるよう施設・設備の計画的な改修・修繕を実施します。

取組の方向

- スポーツ活動に適した施設・設備の整備・充実
- スポーツ施設の適切な管理・運営

など

② 効率的なスポーツ施設の運営と利便性の向上

気軽にスポーツを楽しむことができる場所を増やすとともに、利用者のニーズを踏まえて、施設の利用手続きや利用時間、利用料などの施設の利便性の見直し・改善を行い、サービス向上に努めます。

また、施設の運営にあたっては、指定管理者等による効率的・効果的な管理・運営を図ります。

取組の方向

- スポーツ施設の利便性の向上
- 指定管理者制度によるスポーツ施設の管理と民間活力を活かした特色ある運営
- 大学や企業等との協働によるスポーツ活動施設等の確保

など

③ 学校体育施設の開放

引き続き、小・中学校の体育施設の開放を実施し、スポーツができる身近な施設として、効果的な利用を図ります。

取組の方向

- 学校体育施設の地域開放

など

④ 公園緑地の利活用の促進

「健康づくりの場」という一面を持つ身近な施設として、幅広い世代による多面的な公園緑地の利活用を促進します。

取組の方向

- 市民団体や企業等との協働によるスポーツイベント等の開催
 - スポーツを通じた健康づくりの発信の場として利活用しやすい環境の整備
- など

(7) 各種競技スポーツのレベルアップ

ジュニア期からの選手の育成においては、地元からプロへと進む人材を育成できる指導者への支援体制の充実に努めます。本市の誇りとなる選手が育ち、全国レベルの大会において活躍する選手やより高い競技力を有する選手の育成をめざし、スポーツ関係団体と連携しながら競技スポーツの強化を図っていきます。また、選手育成に必要な場となる総合体育大会等の各種競技大会は、枚方体育協会の経験や加盟団体により、開催・運営が可能となっており、大会開催にあたり必要となる支援等の充実に努めます。

また、競技団体の登録者の減少や各種大会への参加者減少などスポーツ人口の減少に歯止めをかけるため、本市で育成する選手の一層の競技力向上を図ります。

さらに、生涯スポーツ社会の実現のためには、体育協会やスポーツ推進委員、スポーツ少年団などの指導者の育成とともに、新たな人材の発掘や指導者間の交流、市民ニーズに応えることのできる指導者の育成などの体制づくりに取り組みます。

① ジュニア期からの育成支援

体育協会やスポーツ少年団等が開催する教室や活動内容の紹介を行うなどにより競技人口の拡大を支援するとともに、地元出身や地域で活躍するアスリート、プロスポーツの選手・指導者による直接指導など、高いレベルの競技者や指導者と身近に触れ合う機会を創出することを通じ、子どもが競技スポーツを志す意欲向上に向け取り組みます。

取組の方向

- 競技大会開催等の支援
 - 地元のアスリートによる選手の育成
 - 大学や企業等との協働
- など

② 指導者の確保・育成及び活動支援

体育協会などの関係団体と連携し、スポーツ指導者を対象にした講習等を開催するとともに、府及び各競技団体等が開催する講習会への参加の呼びかけなど、高い専門的知識と指導力を持つ有資格者の育成・確保を支援します。

取組の方向

- スポーツ指導者の確保・育成
- スポーツ指導者の人権意識の向上、個々の特性に配慮した指導を行うための資質の向上
- 身近な指導者の発掘、情報提供
- スポーツ関係団体との連携の強化
- 部活動外部指導者の派遣

など

③ スポーツボランティアの育成と活用

様々なスポーツイベントの運営を支えるボランティアをはじめ、高齢者や障害者などがスポーツを楽しむにあたってサポートを行うボランティアなど、スポーツボランティアの確保・育成を図り、地域におけるスポーツ活動を活性化するとともに、社会貢献としてスポーツを支える気運を醸成します。

取組の方向

- スポーツボランティアの確保・育成

など

④ 総合型地域スポーツクラブへの支援

市民の誰もが参加でき、身近な地域でスポーツやレクリエーション活動に親しむことができる総合型地域スポーツクラブを支援し、スポーツやレクリエーションの機会の充実を図ります。

取組の方向

- 総合型地域スポーツクラブの周知
- 総合型地域スポーツクラブの育成支援
- 総合型地域スポーツクラブの指導者等の資質の向上

など

（８）プロスポーツとの交流促進

市民がスポーツへの関心を高め、スポーツを始めるきっかけづくり、あるいは、さらなる技術向上をめざす良い機会となるよう、トップレベルの選手のプレーを間近に見たり、選手との交流を促進したりする機会の提供について、スポーツ関係団体や企業等と連携し取り組めます。

取組の方向

- 市広報誌・ホームページ等を活用したチーム関連情報の定期的な発信
- トップアスリートとの交流の機会づくり

など

第4章 計画の推進

1 推進体制

(1) 各主体の役割

■市民の役割

市民は、それぞれの年齢や価値観・ライフスタイルに応じスポーツを楽しみ、日々の暮らしを充実します。また、スポーツによる人や地域とのつながりを大事にし、スポーツを通じた地域活性化に貢献します。

■枚方体育協会の役割

これまで培ってきたノウハウや専門性、関係機関・団体とのネットワークなどを活用し、地域スポーツ推進の中心的役割を果たせるよう、市や地域活動団体、民間事業者などと連携しながら、市民のスポーツ参加機会の拡充をはじめ、多様なスポーツニーズへの対応、スポーツの楽しさ、魅力の発信を行います。

■地域の活動団体の役割

市民に身近な存在として活動の中にスポーツを積極的に取り入れることで構成員や地域の交流促進を図るほか、地域におけるスポーツ指導者・ボランティア人材を発掘します。

■学校の役割

市の社会教育部やスポーツ団体・地域と協力して子どものスポーツ活動を推進するとともに、スポーツをする機会を充実します。また、クラブ活動の充実により子どもの競技力や体力の向上に取り組めます。

■民間事業者の役割

民間事業者の専門性を活かし市民の多様なスポーツニーズへの対応のほか、市と連携して市民のスポーツニーズや実態の把握などを行い、地域スポーツの底辺拡大に取り組めます。

■プロスポーツの役割

多くの人々に親しまれているプロスポーツは、子どものスポーツへの関心を高め、スポーツの裾野を広げる役割を果たすとともに、競技者の高度な技術や経験を伝えるなどの活動を行います。

■行政（枚方市）の役割

市民にとって楽しいスポーツを実現できるようスポーツの環境づくりに努めます。

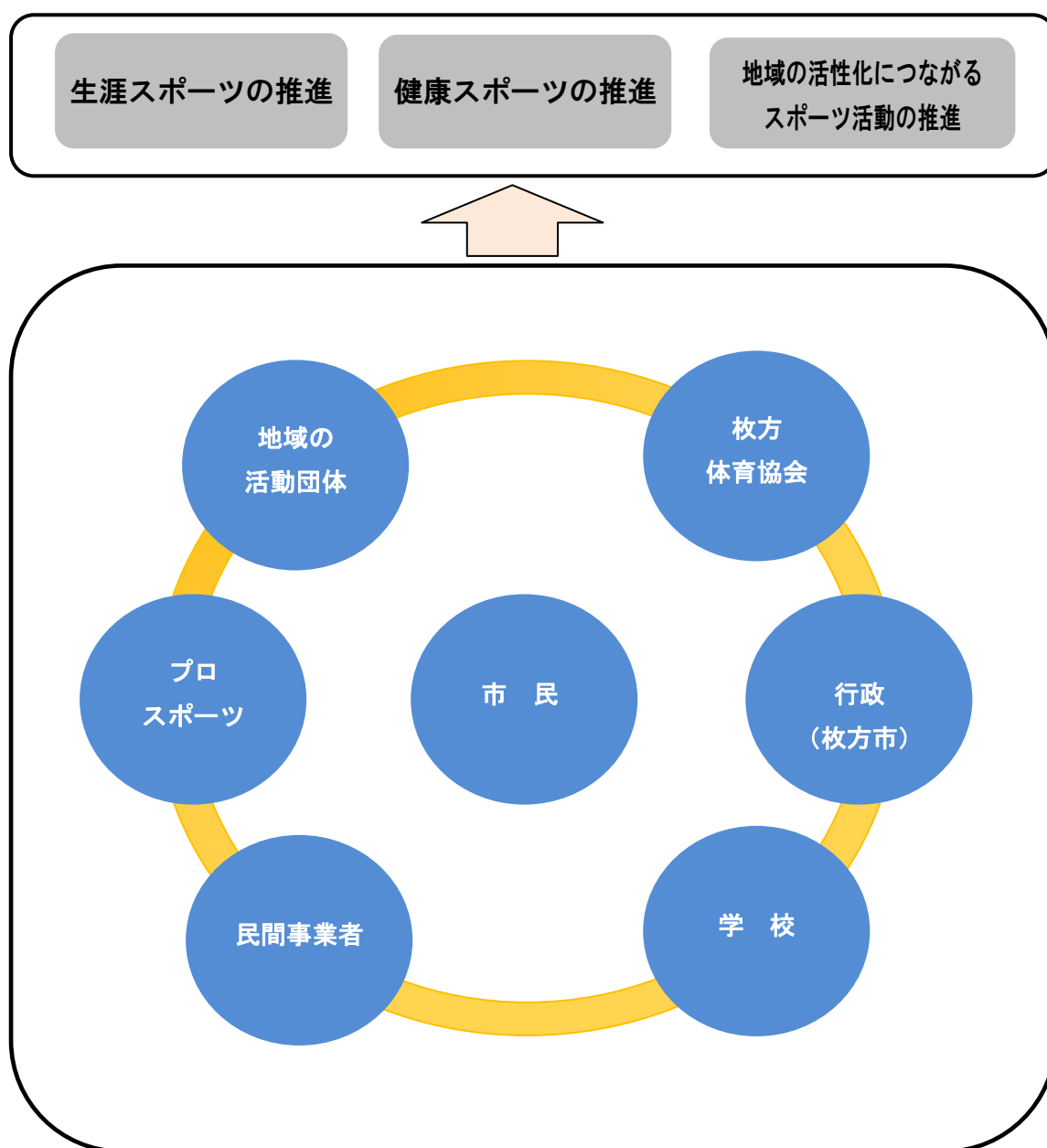
また、関連する関係部署と連携したスポーツの推進を通じ、市民の健やかで豊かな暮らしの実現をめざし取り組めます。

（２）スポーツ関係団体と行政との役割の明確化と適切な協働体制の確立

枚方市は市民がスポーツ活動を行うために必要なハード・ソフトの基盤整備を引き続き進める一方、枚方体育協会・枚方市スポーツ推進委員などのスポーツ関係団体は、行政とのパートナーシップのもと、スポーツ領域における専門性を活かし、本市のスポーツ環境の水準の向上に取り組むことが求められます。

そのため、本市におけるスポーツ施策推進にあたり、枚方体育協会・枚方市スポーツ推進委員のほか、プロスポーツやスポーツに関わる地域の団体や様々な活動主体等と適切な協働体制を確立し、各種スポーツ活動の振興とスポーツ施設の利用環境の整備に向けた取組を推進します。

【枚方市におけるスポーツ推進の方向性と推進体制のイメージ図】



2 進行管理

本計画は、施策とそれに基づく事業を継続的に改善していくため、P D C A (Plan-Do-Check-Action)サイクルの手法により、事業内容の点検・評価を行い、改善を図ります。

具体的には、本計画で示す方針に基づく事業は、各所管部門において毎年度事業を立案（Plan）し、それを実行（Do）した上で、その取組の効果・成果等を点検（Check）し、改善すべきところは改善し、より実効性のある取組（Action）につなげます。

本計画の推進にあたっては、学識経験者やスポーツ団体関係者、学校関係者、市民などから構成する「枚方市スポーツ推進審議会」において点検・評価を行い、助言を受けながら進行管理を行います。